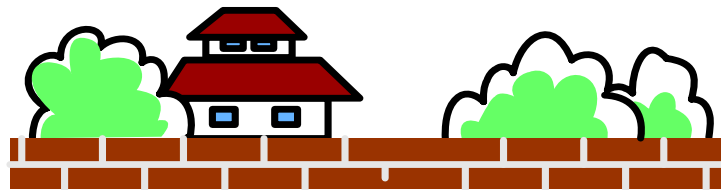


研究報告書 第317号

学校から家庭への効果的な 支援方法の調査研究 ～学校から家庭教育へのアプローチⅡ～ (家庭教育学級編)



平成20年3月
埼玉県立総合教育センター

目 次

I	研究主題	-----	1
II	研究主題設定の趣旨	-----	1
III	研究のねらい	-----	2
IV	研究の進め方と経過	-----	2
V	埼玉県内市町村の家庭教育学級の実施概要	-----	3
VI	家庭教育学級の具体的な事例		
1	ふじみ野市立亀久保小学校	-----	1 8
	A 人権講演会「命の大切さ」		
	B A E D講習会		
2	伊奈町立小針小学校	-----	2 6
	A 環境美化活動・いきいき生活支援「親子で流しそうめん&かき氷」		
	B エアロビクス・ヨガ教室		
3	越谷市立大袋東小学校	-----	3 6
	A 講演会「豊かな子育て親育ち」・「食事と健康」		
	B 母親教室「ドライフラワーのフレームアレンジ」		
VII	アンケート調査結果の分析・考察	-----	4 4
VIII	研究のまとめ	-----	5 3

【調査研究の概要】

今、家庭の在り方が問われている。子どもたちのあいさつや整理整頓など、基本的な生活習慣の欠如が指摘され、家庭でのしつけについて、その方法や親の意識に課題があるとの意見もある。このように家庭の教育力の低下が叫ばれている中、小学校の家庭教育学級に焦点を当て、保護者の参加意欲の向上や研修内容の充実のため、検討を重ね調査研究協力校3校で家庭教育学級を実施した。その後、保護者・教員対象にアンケート調査を行い、分析・考察を加え、学校から家庭への効果的な支援策について提言する。

学校から家庭への効果的な支援方法

それは「家庭教育学級」が一番です！

家庭教育学級実施にあたっての 7つの提言

提言 1

情報の再発信

学習内容や参加者の感想を
再発信し、成果の再認識を！

提言 2

学びの成果を授業で

学んだ成果を授業参加で
生かすチャレンジを！

提言 3

教員が企画から参加

教員が企画から参加し
学習内容の充実を！

提言 4 地域ぐるみの活動

提言 5 P T A活動の活性化

提言 6 公民館（行政）との連携

提言 7 環境整備・条件整備

研究協力校の実践

ふじみ野市立亀久保小学校

伊奈町立小針小学校

越谷市立大袋東小学校

研究主題

学校から家庭への効果的な支援方法の調査研究

～学校から家庭教育へのアプローチⅡ～（家庭教育学級編）

学校からの支援
何ができるのか！

〔教育基本法の改正・新設〕

家庭教育に関すること(第 10 条)

学校・家庭・地域の連携(第 13 条)

〔教育改革アクションプランで強調〕

○学校を親が学ぶ拠点に！

○P T A活動の活性化を！

今日の家庭状況

○子育てに悩む親

○子どもに対して無関心・無責任な親

○放任・虐待など精神的に不安定な親

○地域から孤立する家庭

I 研究主題

「学校から家庭への効果的な支援方法の調査研究」 ～学校から家庭教育へのアプローチⅡ～ (家庭教育学級編)

II 研究主題設定の趣旨

今日、少子化・核家族化の進行、価値観の多様化など、社会的な要因から家庭の教育力の低下がみられ、その向上が大きな課題となっている。

現在の家庭状況をみても、子育てに悩む親、子どもに対して無関心・無責任な親、放任・虐待など精神的に不安定な親、地域（近所の人々）とかかわることができず孤立する家庭等も年々増えてきている。これらのことが起因となるであろう様々な問題が、学校現場でも起きている。なかでも小学校入学当初から席に着いて静かに話が聞けない子ども、友だちと一緒に遊べない子どもなどが増加している現状は、その典型とも言える。

現在、国や県をあげての教育改革が進められている。「教育基本法」の改正では、家庭教育に関すること（第10条）及び、学校・家庭・地域の連携に関すること（第13条）が新設された。また、埼玉県のカolorの国教育改革アクションプランでは、7つの大柱の第1に「学校を核として学校・家庭・地域が一体となって子どもを育てる」が掲げられている。今、学校は、家庭の教育力向上に向け、これまで以上に家庭・地域と積極的に関わり、教育を推進していくことが強く求められている。

平成19年度 「カolorの国教育改革アクションプラン」から

【大きな7つの柱の第1】

学校を「核」として学校・家庭・地域が一体となって子どもを育てる

- ① 地域の拠点としての学校づくりを進める
- ② 学校を、親が学び、子どもの体験活動を進める拠点とする
- ③ 教員の意識改革を進める
- ④ 「学ぶPTA、活動するPTA」を推進し、PTA活動を活性化する
- ⑤ 安心・安全の視点をもった学校運営を進める

【関連する埼玉県の施策】

- 元気な学校をつくる地域連携推進事業
 - 教育に関する3つの達成目標総合推進事業
 - 「親の学習」研究開発・推進事業
 - 家庭教育支援事業
- 等

このような状況の下、当センターでも、これらの課題解決を目指し「学校から家庭への効果的な支援方法」の調査研究を進めてきた。

研究1年目の平成18年度は、「入学前の子どもをもつ保護者に対する支援」を中心に研究を進めた。小学校入学を前に、保護者は子どもの友だち関係や小学校生活に適應できるか等の悩みや不安をもっている。そこで、児童が学校に適應し充実した学校生活が送れるように、入学前の子どもと保護者を対象に、幼稚園・保育園長、保健師、NPO子育て支

援団体等の協力を得て、具体的支援策を検討し「学校から家庭への支援」モデルプランを作成した。

そして、2年目の本年度は、家庭教育学級に焦点を当て「学校から家庭への支援」について研究を進めた。平成17年度より県内全小中学校で取り組んでいる3つの達成目標の実施状況をみても、子どもたちのあいさつの励行や身のまわりの整理整頓など、基本的な生活習慣の定着度は、必ずしもよい状況とは言えない。

家庭教育学級とは、「親等が家庭教育に関する学習を、一定期間にわたって、計画的、継続的かつ集団的に行う事業をいう。」(昭和46年文部省通知「家庭教育学級の開設及び運営について」より)と定義される。家庭教育学級は、すべての教育の出発点であり、人間形成の行われる最初の間であるという家庭の役割や意義を、保護者自身が改めて学習し見つけ直す機会ともなる。そして、親自身が自分を高め成長していくことが、子どもの豊かな成長につながっていくことに気づいてほしいと考える。本調査研究では、家庭教育学級を小学校から家庭へのアプローチの一方策として位置付け、具体的な提言をまとめることにした。

Ⅲ 研究のねらい

- 1 保護者の家庭教育学級に対する参加意欲を高め、参加してよかったと実感できるようにするための具体的な支援方法を検討し明らかにする。
- 2 小学校における家庭教育学級について、保護者と教員の意識調査を実施し、実施上の留意点を提言する。

Ⅳ 研究の進め方と経過

- 1 県内市町村での家庭教育学級のシステムと小学校現場での家庭教育学級の現状を調査し、PTA活動との関連や公民館との連携の在り方を検討した。
- 2 調査研究協力校が、各学校の実情に応じた家庭教育学級を実践した。
- 3 小学校の保護者と教員に、家庭教育学級に対するアンケート調査を実施し、その上で、家庭教育学級を学校から家庭への支援策と位置付け、実施上の留意点を提言としてまとめた。

第1回調査研究協力委員会	5月31日(木) 基調講義、研究の内容・計画の提案
第2回調査研究協力委員会	6月28日(木) 家庭教育学級の現状と実施内容の検討
第3回調査研究協力委員会	9月20日(木) 研究協力校の進捗状況報告とアンケート調査の内容の検討
第4回調査研究協力委員会	11月15日(木) 実践事例、アンケート調査結果の分析・考察
第5回調査研究協力委員会	12月14日(金) 研究のまとめ、研究報告書の検討

V 埼玉県内市町村の家庭教育学級の実施概要

本調査研究事業では、小学校の家庭教育学級に焦点を当てている。先に示したとおり、家庭教育学級の一般的な定義は、昭和46年の文部省通知「家庭教育学級の開設及び運営について」にあるように「親等が家庭教育に関する学習を、一定期間にわたって、計画的、継続的かつ集団的に行う事業をいう。」というものである。県内の状況をみると、家庭教育学級のとらえ方が各市町村により異なっているようであり、小学校の保護者だけでなく、対象を広げて実施している場合もある。また、実施形態も各市町村により、右の表のように大きく異なっている。

次に、埼玉県内70市町村の家庭教育学級実施の全体像を示したい。下記の表は、平成18年度の埼玉県社会教育統計資料から抜粋したものである。(平成17年度実績

- 教育委員会が主催し、市内の小中学校で実施
- 教育委員会が町内の小中学校のPTAに委託
- 公民館が主催事業として実施

のため合併前の江南町を表記)先に示したように各市町村により実施形態が異なるため、家庭教育学級の教室数は、すべての数値が同質のものではない。しかし、年間の活動で1,000名を越える保護者が参加しているところもあり、子どもを持つ親にとって、家庭教育について学べる貴重な機会となっていることはまちがいない。各市町村では、学校数、学校規模、保護者数等が異なり、家庭教育学級の開設に当たっても、それぞれの歴史と経緯がある。中には、40年を越える歴史をもち、今のスタイルを創り上げたところもある。そこで、本調査研究協力委員の所属する7市町の家庭教育学級の概要について以下に示していく。

埼玉県内の家庭教育学級の実施状況

平成18年度埼玉県社会教育統計資料(市町村の学級・講座等開設状況)より抜粋

市町村名	教室	参加者数	市町村名	教室	参加者数	市町村名	教室	参加者数	市町村名	教室	参加者数
さいたま市	40	3,385	東松山市	0	0	東秩父村	0	0	越谷市	11	1,328
川口市	21	4,919	狭山市	3	330	熊谷市	0	0	久喜市	0	0
鴻巣市	5	1,123	入間市	1	19	本庄市	48	2,012	八潮市	15	1,462
上尾市	5	441	富士見市	0	0	深谷市	50	3,025	三郷市	0	0
草加市	4	228	坂戸市	5	213	美里町	20	890	蓮田市	26	2,786
蕨市	20	1,108	鶴ヶ島市	5	240	神川町	5	610	幸手市	22	3,853
戸田市	42	2,846	日高市	2	85	上里町	0	0	吉川市	86	5,809
鳩ヶ谷市	6	461	ふじみ野市	1	920	江南町	0	0	騎西町	11	1,839
朝霞市	24	3,941	三芳町	8	1,350	寄居町	12	771	北川辺町	0	0
志木市	4	2,596	毛呂山町	7	594	秩父市	6	1,386	大利根町	4	304
和光市	2	107	越生町	0	0	横瀬町	2	103	宮代町	4	107
新座市	0	0	滑川町	2	153	皆野町	2	294	白岡町	2	275
桶川市	2	426	嵐山町	1	340	長瀬町	4	236	菖蒲町	0	0
北本市	26	3,577	小川町	0	0	小鹿野町	0	0	栗橋町	4	1,009
伊奈町	1	407	ときがわ町	1	42	行田市	22	4,275	鷲宮町	0	0
川越市	7	459	川島町	1	120	加須市	8	1,126	杉戸町	0	0
所沢市	48	11,151	吉見町	4	893	春日部市	19	790	松伏町	0	0
飯能市	17	843	鳩山町	0	0	羽生市	3	330			

1 ふじみ野市の家庭教育学級

(1) 趣旨等

ふじみ野市教育委員会では、子どもたちの成長のために、家庭における教育機能が十分に発揮されることを目指して、家庭教育の支援を行っている。家庭教育学級という学びの場を通して、家庭教育に関する知識を学び視野を広げるだけでなく、多くの出会いやふれあいを通じ、人生を豊かにし笑顔と潤いのある家庭づくりに役立てることを願っている。

教育委員会生涯学習課が、家庭教育学級を主催し、市内各小中学校のPTAごとに開催している。家庭教育学級を「保護者が、子どもを育てていくために必要な、様々なことを学ぶ場」として捉え、「①仲間や友だちができる②いろいろ学ぶことができる③知識を吸収したり技術を高めたりできる④自分の持ち味を生かすことができる⑤学んだことを生かすことができる」の意義があるとしている。

〔家庭教育学級の概要〕

- 【目 的】 子どもの実態と家庭の教育機能を幅広く見つめ、家庭生活を充実し、健全な児童生徒の育成と家庭の教育力の向上を図り、計画的、継続的に実施することを目的とする。
- 【対 象】 ふじみ野市立小中学校の全保護者を対象として、各学校の希望者で学級を編成する。また、家庭教育に関心を持つ、地域の方なら誰でも参加できる。
- 【学習活動】 親として必要とされる問題の解決を図るとともに、学級生のニーズに応える具体的な問題を取り上げ、多様な学習方法を効果的に用いる。

(2) 学習内容等

学習内容を決定するに当たっての留意点として次の2つを上げている。①趣味的な「やってみたいこと」ではなく、今、保護者として「学ばなければならないこと」や「何が知りたいのか」「何が必要とされているのか」を把握して設定する。②学級生の学習意欲を喚起するような、身近で具体的な問題を取り上げ計画を設定する。

〔学習内容の具体例〕

講座内容	内容等
講話	学校教育目標 生徒指導 進路指導 子育て等
講話と実技	護身術 調理実習 読み聞かせの方法等
講演・講義	文京学院大学・市民カレッジとの共催事業 体験者・経験者等の講演
実習実技	救急救命法 太極拳 気功等
ビデオ視聴	人権啓発ビデオ
その他	給食試食会 消防署見学 ふじみ野歴史めぐり等

(3) 運営等

家庭教育学級をスタートさせるに当たり、年度当初に準備説明会を実施している。「家庭教育学級実施要項」に基づき、開設の準備、学級の運営等について細かく説明が行われる。特に、一年間の見通しをもてるように、年間スケジュールが提示される。

[年間スケジュール]

月日	生涯学習課	学校・PTA・学級生
5 / 1 1	◎開設準備会 ※保育あります（要 申込） 大井中央公民館大会議室 ・各校ごとに実施計画書を添えた学級生募集要項（申込書）を作成する ・各校に募集要項を配布 → ・申込書をもとに学級ノートを作成し、各校に配布 →	・開設準備会に出席する 出席者＝学校・PTA（担当者） 家庭教育学級計画を立案する ←生涯学習課に実施計画書を提出 ・学級生募集要項を全保護者に配布 ・保護者からの申込書を取りまとめる ←生涯学習課に申込書を提出 ・開校式で学級生にノートを配布 ・第1回は計画会で準備する ・第2回以降の役割分担を決める
6 /	◎第1回家庭教育学級（開講式） ※保育あります（要 事前申込） ・第2回開催通知配布 →	←生涯学習課に第1回学習記録を提出 ・学級生に配布
7 /	◎第2回家庭教育学級 ※保育あります（要 事前申込）	◎人権講演会
8 月下旬 	○家庭教育学級打ち合わせ会  (途中省略)	・学級長、担当役員が出席する 
1 1 /	◎第5回家庭教育学級 ※保育あります（要 事前申込）	←第2回目以降も学習記録を提出
1 2 /	◎第6回家庭教育学級（閉講式） ※保育あります（要 事前申込）	←全体を通しての感想文を提出 (学級長が12月中に)
1 月	家庭教育学級集録作り	
2 月	○家庭教育学級反省会	・反省会に出席
3 月上旬	家庭教育学級集録完成	・集録配布

2 伊奈町の家庭教育学級

(1) 家庭教育学級の位置付け

伊奈町教育委員会では、生涯学習事業の一環として「子どもの成長段階に即した親の指導力の向上を図る。」を具体的推進目標とし、家庭教育に関する複数の事業を実施している。①家庭教育通信相談事業（「ひよこ通信」年6回発行 ・育児情報の提供・特集「幼児期の食生活としつけ」等）②小中学校PTA家庭教育学級の事業である。

(2) 小中学校PTA家庭教育学級

毎年5月に教育委員会生涯学習課が、第1回PTA家庭教育学級事前打ち合わせ会議を実施する。各小中学校のPTA役員は毎年入れ替わっているため、この会議で改めて家庭教育学級の概要説明を行い、各校ごとに実施している。当日の資料は、①委託要項②開設及び運営について③学習主題一覧表④年間計画案⑤1回の展開例⑥昨年度の実施報告書等である。委託料は、1校につき8万円である。また、年間5コマ以上、「食」「人権」に関する内容を取り入れることになっている。

[年間計画の例 A 小学校]

回	日 時	学 習 内 容
1	5月20日（火） 10:00 ～ 12:00	開講式 「人権に関する講話」
2	7月8日（土） 13:30 ～ 15:30	合気道から学ぶ護身術 ～親子で学ぶ愛・合気道～
3	9月28日（木） 10:00 ～ 12:30	小中合同【調理実習】 「食に関する講話」
4	11月25日（土） 13:20 ～ 14:30	7校合同 「夢・ときめき・ふれあいコンサート」
5	12月14日（木） 10:00 ～ 12:00	「くすり安心安全講話」 閉講式

[年間計画の例 B 中学校]

回	日 時	学 習 内 容
1	6月12日（月） 14:00 ～ 16:00	開講式 講話「中学生の教育について」
2	7月15日（土） 10:00 ～ 12:00	小中合同 「エアロビクス」
3	10月13日（金） 10:00 ～ 12:30	給食試食会 講話「成長期の食事について」
4	11月25日（土） 13:20 ～ 14:30	7校合同 「夢・ときめき・ふれあいコンサート」
5	12月4日（月） 14:00 ～ 16:00	講話「人権について」 閉講式

[事前打ち合わせ会議 説明資料]

平成19年度 P T A家庭教育学級の企画・運営に当たって

伊奈町教育委員会生涯学習課

お願い

別紙「P T A家庭教育学級委託要領」によるほか、学習に、発育・発達の時期にある子どもたちにとっての「食」の持つ重要な意義と役割についての意識啓発に関する題材を1コマ取り上げていただきたい。

※ 平成16～18年度 文部科学省による「学校を中心とした食育推進事業」の推進地域の依頼（担当：学校教育課）を受ける。

例：子どもの発達と栄養	食生活の改善	食材の生産や食品の流通
望ましい食習慣	食と健康	子どもたちのための「食」等

- 1 家庭教育学級開設にあたっては、学習効果のあがる参加者数、開設場所に配慮する。
- 2 学習の企画、立案等では、学校や社会教育団体等の協力を得ることは望ましいが、P T Aの主体性を失わないようにすることが大切であり、運営はできるだけ活動部全体であたるようにする。

3 学習内容

- ① 現在のP T Aの課題、地域の課題を把握し、家庭教育に欠けている内容を取り上げるようにする。

- ② 学習目標（テーマ）とマッチした内容になっているかを考える。

例：家庭の教育機能について	学校教育について
子どもの成長について	親の責任と指導
子どもの進路	子どもを取り巻く環境
その他、一般教養に関する学習	等に留意し内容を豊かにする

4 学習方法

講演・講義よりも参加者の積極的な参加意識を重視し、学習者相互の話し合いや学習に子どもの声を取り上げるなど、積極的な改善を図るようにする。

また、視聴覚機器（放送、映画、テレビ）等を活用して、学習情報を豊富にする。

- 5 学習に参加できなかった人たちに呼び掛け、学習内容の紹介、伝達方法の工夫も考慮し、相互理解、人間関係の向上による成人教育活動の充実に努める。

（3）家庭教育学級についての課題

家庭教育学級の内容としては、家庭教育の課題について取り上げるよう促しているが、必ずしもそうでないものもある。また、講演・講義などだけでなく、参加者相互の話し合いなど、学習方法にも改善の余地がある。

3 越谷市の家庭教育学級

(1) 家庭教育学級の概要

越谷市では、各公民館の主催事業として家庭教育学級を実施している。「子どもの健やかな成長を願って」「家庭の教育力の向上を目指して」などをテーマに、小中学生の保護者を対象に行っている公民館が多い。「家庭教育の大切さ」「人間性が育つほめ方、叱り方」「食生活としつけ」などを演題にした講演会や「リフレッシュ体操」「自分の身を自分で守ろうー護身術ー」など実技実習を内容に実施している。さらに近隣の施設見学等も実施している。各館とも3～4回程度の日数を短期間に集中して行う例が多いようである。

また、教育委員会生涯学習課では、就学前（3～5歳児）の子どもを持つ親を対象にした子育て講座を市内の地域ごとに4箇所で開催している。平成18年度は、下表のようにNPO法人・市内子育てサークル等の協力を得て、「子どもの成長に応じた親の関わり方」をテーマに実施した。

	開催日	会 場	担 当
1	9月13日	児童館ヒマワリ	子育てサポーター・チャオ
2	9月14日	児童館コスモス	子育てサークルネットワークの会
3	9月20日	越谷地区センター・公民館	子育てサポーター・チャオ
4	9月21日	科学技術体験センター・ミラクル	子育てサークルネットワークの会

(2) 家庭教育学級の実例

本調査研究事業の協力校である大袋東小学校区の大袋公民館の事例を以下に紹介する。

平成19年度 大袋公民館主催事業「家庭教育学級」

1 趣旨

家庭は、基本的な生活習慣や生活能力、豊かな心、他人に対する思いやりを養う場です。子どもは、親の生き方を通して、自ら考え判断し行動する「生きる力」を学んでいきます。

今回の家庭教育学級は、子どもをめぐる問題や親の考え方や取組の変化など家庭における様々な問題を共に考える場を提供し、家庭教育の充実を支援するために開催します。

2 日時

平成19年6月8日～6月29日の毎週金曜日 [全4回]

午前10時～正午

3 会場

大袋地区センター 大会議室（会場） 小会議室（保育室）

4 対象

幼・少年期の子どもを持つ保護者 30名程度

※ 乳幼児のいる方のために保育室を設けるので、必要な方は申し込み時に申し出ること。

5 参加費

無料

6 持ち物

筆記用具

7 申し込み

一般受付→5月1日から申込順で受付

子ども会・PTA→団体ごとに所定の報告書にて5月30日（水）まで

8 広報

大袋地区だより5月号及び各小中学校PTA、大袋地区子ども会育成連絡協議会加入の単一子ども会へ周知

9 実施内容

第1回 6月8日（金） 34名参加 研修形態 講義・グループトーク

「子どもの生活リズムについて」

埼玉県家庭教育振興協議会 坂田 庸子 さん

○ 子どもの生活リズムを整えることで、脳の活性化、基礎代謝の向上、やる気を育てる効果があることが説明された。講義の後、参加者が班ごとに分かれグループトークを行い、子育ての現状について情報交換しアドバイスを受けた。

第2回 6月15日（金） 22名参加 研修形態 講義

「子どもたちの思いやりの心を育てよう」

東京家庭教育研究所 黒田 育世 さん

○ 「家庭教育で情を育てる必要がある。情は、すべての教育・人格の基礎であり、それは家庭の中でまわりの家族の感情を受け取ることで育まれていく。夫婦がお互いに持ちつ持たれつの関係にある姿を見せることで、子どもは人間関係や社会を学んでいく。」というお話であった。

第3回 6月22日（金） 23名参加 研修形態 講義

「スポーツを通した子どもの心の成長」

文教大学教育学部准教授 米津 光治 さん

○ 遊びとスポーツ・スポーツと人間形成という視点から、子どもの心の成長や子どものコミュニケーション能力についてお話があった。

第4回 6月29日（金） 35名参加 研修形態 講義

「低学年までにしかできないこと、高学年からでも間に合うこと」

花まる学習会代表 高濱 正伸 さん

○ 「自己治癒力」という言葉をキーワードに、子どもたちが、自立し魅力的な人に育つには、「自信」と「憧れ」を持てるようにすることが大切であると力説された。

10 配慮事項

幼・少年期の子どもを持つ保護者の方が対象であったので、保育室を設けた。保育には、地区内の市立保育所の保育士に協力をお願いした。

11 今後の課題

学習内容をよりニーズに合った充実したものにするため、アンケート等を実施し希望にそった企画にしていきたい。

4 所沢市の家庭教育学級

(1) はじめに ～所沢市の家庭教育学級のあゆみ～

所沢市の家庭教育学級は、昭和39年に「家庭教育に関する学習の機会」として、市内小中学校で開設された。昭和40年代の草創期から50～60年代の拡充・発展期を経て、生涯学習時代を迎えた平成の現在に至るまで、全小中学校で40年余りの歴史がある。市の生涯学習推進事業の柱の一つとして、学校・家庭・地域と連携し時代の要請に対応した子育てや学びに創意・工夫を凝らし、着実な実践を積み上げている。

(2) 心豊かに子育てを

①家庭教育学級の趣旨

子どもの人間形成にとって、教育の原点として家庭は重要な役割を持っている。子どもたちが、激しい社会の変化に適切に応え、自らの人生を逞しく生きていく力を持つことは、すべての家庭の共通の課題である。教育委員会では、心豊かな家庭づくりを支援する事業として家庭教育学級を開設し、子育てに関する学びの機会を提供している。家庭教育学級では、子どもに「豊かな心、自ら学ぶ意欲、個性の伸張、基本的生活習慣」を培う家庭教育について、組織的・計画的・継続的に学習することができる。

②運営委員会と学級生

家庭教育学級の開設に当たっては、所沢市と市内小中学校単位組織（運営委員会）が委託契約を結ぶ。（委託金7万円）運営委員会は、学校・PTA会長等役員・学級代表者等により組織され、基本方針を決め、学級の自主的活動が効果的に実施されるよう条件整備する役割を果たす。家庭教育学級には、市内小中学校の保護者を中心に、家庭教育に関心のある校区の誰でも、学級生として参加できる。家庭教育学級では、学級生の思いや願いを伝える愛称をつけて活動している。

③家庭教育学級の学び

〔期 間〕 6月～2月初旬

年間学習計画（例）

〔学習時間〕 年間18時間程度

学習計画は毎年学級生の希望をもとに作られます

〔学習形式・学習内容〕

○講演・講義

子育て・人権教育・環境 等

○心身の健康づくり

思春期の心と身体・ストレッチ 等

○施設等見学

航空管制部・寺院文化財 等

○物づくりの実技・実践

郷土食づくり・フラワーアレンジメント 等

※全講座修了後、閉講式で修了証書を交付

<学習目標>		ふれ合おう	語り合おう	育もう
回	月 日	学習課題	学 習 内 容	
1	6月〇日	開講式	家庭教育学級の趣旨と心構え	
2	6月〇日	人権教育合同講座	講話・人権映画の視聴	
3	7月〇日	安全な生活のために	応急手当の知識と技術	
4	9月〇日	環境を考える	自らの日常生活を振り返りゴミ問題を考える	
5	10月〇日	家族の健康と食生活	バランスのとれた食生活を考える	
6	11月〇日	子育て支援公開講座	成長期の子どもの心と親の対応	
7	12月〇日	郷土所沢の伝統を学ぶ	所沢の伝統文化について知る 史跡見学・伝統文化の体験	
8	1月〇日	閉講式	修了証書授与 学習のまとめと反省会	

(3) 平成19年度の開設状況

テーマ 「子どもを健全に育てるために 地域や各家庭の教育はどのように進めたらよいか」

①学級数

小学校	32
中学校	15
合 計	47

☆PTAとは別組織 21

PTA活動として 26

②学級生数

() 内は平成18年度

	男	女	合 計
小学校	33 (32)	1,597 (1,631)	1,630 (1,663)
中学校	18 (17)	595 (652)	613 (669)
合 計	51 (49)	2,192 (2,283)	2,243 (2,332)

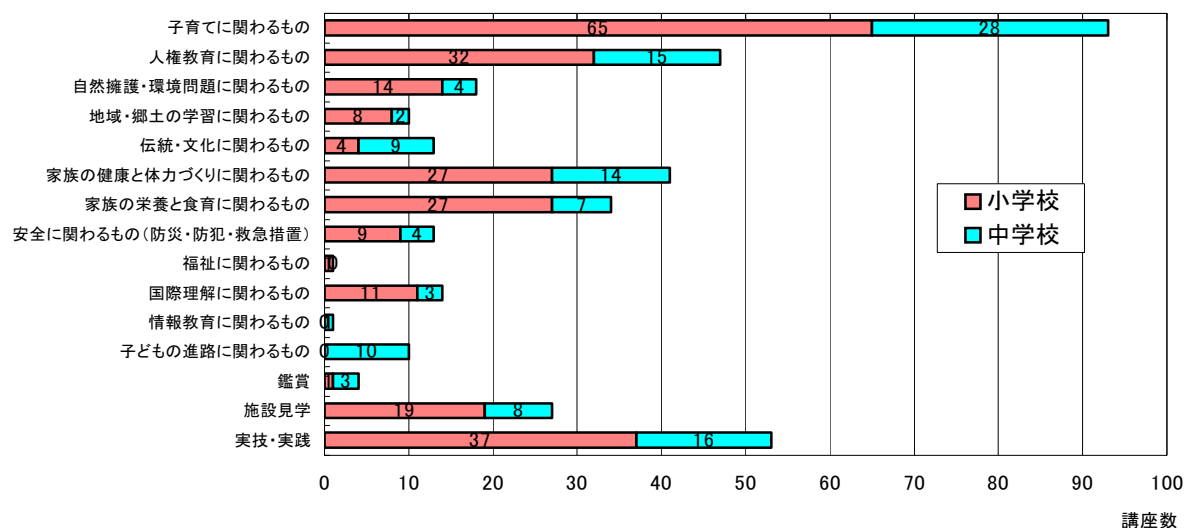
☆保護者以外の学級生は92人



◆研究協議会

一年間の活動について発表!!

③講座内容・講座数



(4) まとめにかえて ～講座運営の工夫と支援体制～

各家庭教育学級では、班活動を多く取り入れ、講座の企画・講師の依頼・案内の配布・当日の運営等の自主活動により、学級生の参加意識や充実感・達成感を高めている。

また、学校やPTAの理解・協力により、より多くの親や地域の人々が講座に参加できるように様々な工夫をしている。校内公開講座や地域公開の子育て講座の実施、近隣の学級同士での合同講座の開催、学校行事(例：音楽会で合唱・展覧会に作品展示等)や授業(例：盲導犬等の福祉や環境問題等)やPTA行事(例：健康体操等)への参加や共催等である。

教育委員会では、年間を通し計画の相談や活動へのきめ細かな支援を行うと共に、年度末には研究協議会(実践報告会)を開催し、4月に基調講演をしていただいた大学教授等の指導・講評を受け、成果や課題を全体のものとしている。また、「学習のあしあと」を作成し学級運営・企画の手引き書に位置づけ、活動の継続化を図っている。

家庭教育学級は、地域のつながりの中で親として、社会の一員・地域の担い手の一人として、発達段階に応じた子育てを通し共に成長する“あなたの学び 応援します”。

5 蓮田市の家庭教育学級

(1) 家庭教育学級の目的

子育てについての情報があふれている現代、情報に振り回されるのではなく、適正な情報を選択する目を養い、親として、一人の大人として積極的に自信をもって子育てに関われるように開講している。

☆ 子育てについて学ぼう	☆ 学校を知ろう
☆ 仲間をつくろう	☆ 人生を豊かにしよう

《子育てについて学ぼう》

家庭教育の講演を聞いたり、話し合ったりすることで、今までの子育てを振り返り、今後の子どもとの関わりについても考えます。

《学校を知ろう》

校長先生や教頭先生の人柄にふれたり、学校の教育方針を理解し、また学校でのふだんの子どもの様子を見ることも大切です。

《仲間をつくろう》

一人で悩まないで、仲間をつくり、子どものこと、地域のことなど、情報交換をしましょう。

《生活を豊かにしよう》

学ぶ姿勢を大切にし、何か打ち込めるものが見つかるといいですね。

(2) 家庭教育学級の組織

◇委託家庭教育学級

小学校とPTAに運営を委託

対象は1年生(又は1・2年生)保護者

市内全小学校において開設

◇自主家庭教育学級

委託学級対象以外の学年の保護者

中学校の保護者

5小学校 15学級 3中学校 3学級



学級	回数	参加人数	委託金・補助金	人権学習	バス利用
委託	6回以上	規定無し	36,000 円	必修	学級毎に1回
自主	5回以上	概ね15人以上	20,000 円	自由	学校で1回

(3) 家庭教育学級の実践事例

平成18年度蓮田中央小学校「家庭教育学級」

回	年月日 時間	会 場	学 習 内 容	講 師 等	参加人数
1	5月26日(金) 9:45～10:45	中央小 多目的室	開講式 学校探検	上田校長先生	16
2	7月6日(木) 9:30～13:00	勤労青少年 ホール	焼き餃子 講習会	黄 琪雅 氏	23
3	9月29日(金) 10:00～11:30	市立図書館 視聴覚室	人権学習	上田校長先生	13
4	10月26日(木) 9:30～13:00	キューピー(株) 五霞工場	社会見学	キューピー オープンキッチン 担当 中村 氏	15
5	11月17日(金) 9:30～12:00	市民体育館パル シー	交流会 ミニテニス	社会教育課	24
6	1月25日(木) 10:00～12:00	市役所	合同講演会	社会教育課	4
7	2月16日(金) 9:30～11:30	中央小第2校舎 多目的室	ビーズアクセサリー 講習会 閉講式	岡崎るり子先生 上田校長先生 社会教育課	15

6 深谷市の家庭教育学級

(1) 家庭教育学級の概要

深谷市では、家庭教育の充実を社会教育の重要課題と位置付けている。家庭教育を推進するための主な事業は、家庭教育だより『まごころ』の発行及び市内12の公民館において行っている家庭教育学級である。

家庭教育学級は、家庭教育に関する学習機会を提供し、子どもをもつ親同士のコミュニティを育てるため、公民館事業の一つとして各館ごとにその独自性を生かし、企画・運営を行っている。そのため、内容や運営方法、参加者数等は公民館によって様々である。

（２）家庭教育学級の運営方法

前述したように、家庭教育学級の運営は、基本的には公民館職員が行っているが、実行委員会を組織し、運営している公民館もある。また、生涯学習課に在籍する２名の社会教育指導員が６館ずつを受持ち、内容の調整や講師の依頼など、経験を生かした助言や指導を行っている。

（３）実施上の課題

企画した内容により、参加者が少ない場合がある。親子で参加できるものや楽しい講座では比較的参加者が多い傾向があるが、どのような講座を希望するのかなど、アンケート等を行って意見を把握するのも良い。また、子どもを通じて参加募集を行っても保護者に伝わらないケースがあり、今後、伝達の方法について検討が必要であるとする。

（４）公民館における家庭教育学級

《上柴公民館の例》

〔年 間 計 画 〕

上柴公民館は、年３回の家庭教育学級を計画している。本年度の内容は、ネット社会への対応や食育、いじめ問題等を取り上げた。

回数	日 時	内 容
１	１０月１日（月） ９：３０～１１：００	「子どもに教えたい、携帯・インターネットのルール」トラブルを起こさない、トラブルに巻き込まれないために！
２	１２月５日（水） ９：００～１０：３０	「子どもの食を大切に！」
３	２月下旬の予定 ９：３０～１１：００	「子育てと子どもの人権」



また、会場として地域の小中学校を使用している。学校行事と抱き合わせて使用することで、より多くの保護者が参加しやすい環境を整えている。

〔会場は地域の小学校〕

《岡部公民館の例》

岡部公民館の家庭教育学級は、実行委員会において、企画・運営を行っている。実行委員会は、各小中学校の保護者及び公民館職員、社会教育指導員で組織している。

委員に保護者が入ることにより、家庭において実際に親子が必要とするものが検討でき、充実した内容の家庭教育学級を行うことができる。

また、保護者は実行委員として運営に携わることにより、家庭教育学級への関心や理解が深まり、実行委員以外の身近な人たちへの影響も期待できる。

第3回の人権講演会には、保護者だけではなく、自治会からの参加もあり、地域を巻き込んだ家庭教育学級として有意義なものになった。



〔和やかに「親業」講習会〕



〔ハーネスをはずしてスキンシップ〕

〔 年 間 計 画 〕

回数	日 時	内 容
実行委員会	5 月 14 日 (月) 15:00～16:30	・ 家庭教育学級の進め方等について ・ 実行委員長の決定 ・ 研修内容・期日等の決定
1	6 月 30 日 (土) 10:00～11:30	『「親業」についての講演会』 演題 「親の役割は何？」
2	7 月 14 日 (土) 9:00～12:00	「親子で聞こうオカリナコンサート」
3	8 月 7 日 (火) 10:00～11:00	『人権講演会』 演題 「盲導犬と生活して」
4	10 月 18 日 (木) 7:00～17:30	『大人の社会科見学』 内容 「東京電力横浜火力発電所見学」
実行委員会	11 月 19 日 (月) 15:00～16:30	・ 内容、期日等の反省会 ・ その他

7 戸田市の家庭教育学級

(1) P T A家庭教育学級の定義

単位P T Aが実施し、家庭教育に関する学習を、自ら企画し、計画的、継続的に行う学級をいう。



(2) 趣旨

子どもたちを取り巻く社会環境の大きな変化の中で「家庭における教育はすべての教育の出発点であり、その後の教育の基盤となる。子どもが家庭で身につけたことは生涯生き続ける」という視点から、家庭の教育力向上のため保護者が家庭教育に関する学習や交流を行い、その成果を家庭や地域に還元することを目的に行う。

(3) 概要

毎年5月に、教育委員会生涯学習課が事業概要の説明会を行う。

- ① 学習内容は、家庭教育に関する課題を多面的に深められるものであること。
- ② 開催回数は、①の学習内容で3回実施すること。
- ③ 生涯学習課で主催する「子育て講演会」「人権講演会」を実施回数に組み込むこともできる。
- ④ 会場は主として各学校を利用するが、公共施設についても利用可能とする。
(使用料が減免される施設もある)
- ⑤ 年度当初に開設申請書を、開始時に年間計画書を、終了時には実施報告書を提出すること。
- ⑥ 学習内容が①の条件に合わない企画を、家庭教育学級として実施してもよいが、3回の回数外とし、その際の講師謝礼は各P T Aの負担とする。
- ⑦ 講師謝礼については、市の基準により1回あたり7, 0 0 0円となっている。

(4) 実践事例

事例1 芦原小学校

① 6月29日(金)

食育『中華料理にチャレンジ!!』

講師：戸田市に在住の中国籍の方



② 7月3日(火)

『子どもの眠りが危ない。眠らない子どもたち、眠れない子どもたち』

戸田市立医療保健センター相談役 平岩幹男先生

③ 10月25日(木)

『男女共同参画と人権講演会』

中央大学法学部教授 広岡守穂氏

事例2 新曽中学校

① 5月24日(木)

『学校育てと子育て講話』 山本礼二 校長

☆第一回家庭教育学級を終えて☆

P T A文化部主催による、講演会が5月24日視聴覚室で行われました。講師の山本校長が「学校育て、人育て」という題名で、就任以来の新曽中学校をどのように育て(経営)きたか、そしてその学校育てから、子育てに通ずることについてお話をされました。60名の参加者があり、「校長先生の情熱が分かった。先生たちが一丸となっていること、見えないところで先生方が努力していることが分かった。」など、感想をいただきました。



② 7月 3日(火)

『子どもの眠りが危ない。眠らない子どもたち、眠れない子どもたち』

戸田市立医療保健センター相談役 平岩幹男先生

③ 12月 3日(月)

『本格的な思春期に入る子どものお母さんに是非知っておいていただきたい事』

～ 産婦人科の助産師より臨床の現場から ～

助産師 藤田佳代子 さん(保護者3児の母)

④ 2月22日(金)

『ヨガ教室』

(5) 課題

家庭教育学級は、戸田市教育行政重点施策の「家庭・地域の教育力の向上」に基づき、具体的な施策として行われている。毎年、引継ぎが十分にできず情報が伝わりにくいこと、実施内容を決定するための時間がないことなどで、役員は苦悩している。そのため、講演や講話が自然と多くなるのもやむを得ないと考ええる。

今後は、テーマを決めて参加者が意見を出し合い議論ができる場の企画(例 講師を招いてパネルディスカッションなど)や家庭教育学級としての新しい試みも検討する余地があるのではないかと思います。受け身的な企画ではなく、参加型のもので参加者同士が楽しみながら人とのふれあいを大切にしてくれたら、子どもたちを取り巻く社会環境が少しずつでも優しいものになると思われる。また、参加できない人ために開催方法や時間・場所、情報の伝達方法などが課題である。

IV 家庭教育学級の具体的な事例

1 ふじみ野市立亀久保小学校における家庭教育学級の取組

(1) ふじみ野市のシステム

本市では、家庭教育学級の総括を、教育委員会生涯学習課が担当している。全6回の学習が設定されており、そのうちの2回は市内共通の学習、他の4回は、各学校独自の取組となっている。

(2) 家庭教育学級の実施状況(実施計画)

本市では、年度当初に年間を通じて参加する学級生を募って実施しているが、それとは別に毎回全保護者に便りを配布し、大勢の方の参加を募っている。

実 施 計 画		亀久保小学校	
ニックネーム		くすの木ママタイム	
学 習 目 標		徳・知・体 ともにのびる親	
回	日時・場所	学習課題・講師等	ねらい
1	6月26日(火) 10:00～11:00 会場 亀小図工室	開講式 講話「のびのび子育て」 講師 久保田正己 校長	子どもとの様々なふれあいを通じて、子どもを育てていく親の役割について考える。
2	7月14日(土) 13:30 開演 会場 大井中央公民館	人権講演会 講演「命の大切さ」 講師 風見しんご 氏	人権尊重の意識を高め、共生の心を醸成する。
3	9月7日(金) 10:00～ 会場 文京学院大学	市民カレッジふじみ野 公開講座	
4	10月22日(月) 11:00～13:00 会場 亀小6年生教室	給食試食会 講話「子どもの食育について」 講師 稲垣たまい 栄養士	給食を通じて、子どもの食育について考える。
5	11月16日(金) 10:00～ 会場 消防署	実習「AED講習会」 講師 消防署職員	AEDの取り扱いを学習する。
6	12月13日(木) 10:00～12:00 会場 亀小図工室	「山と自然と子育てと」 講師 後藤 繁 先生 閉講式	自然の営みに子育ての知恵を学ぶ。

(3) 具体的な取組

A 人権講演会 「命の大切さ」

ア 内容

- (ア) 期日 平成 19 年 7 月 14 日(土)
(イ) 場所 ふじみ野市大井中央公民館
(ウ) 講演 「命の大切さ…」 風見 しんご氏



イ 支援方法

- (ア) 学校だよりやチラシを活用しての周知

保護者の参加意識を高めるために学校だよりを活用した。

学校だよりは、学校からの配布物の中で、保護者が一番目を通すものであり、その効果が大きいと考えたからである。これまでは、PTAの役員が家庭教育学級の主体となっていたため、その開催を学校だよりで知らせることがなく、学校としてのかかわり方に反省を感じた。掲載にあたっては、風見しんご氏の写真を載せ、保護者の関心を高めるとともに、父親の参加や親子での参加を促すようにした。

親子でご参加を

家庭教育学級の取組の一つである人権講演会が実施されます。あらためて命の大切さを学びましょう。どなたでも参加できます。親子で、また、お父さんも是非ご参加ください。

人権講演会

命の大切さ…



7月14日(土)
13:00開場 13:30開演
大井中央公民館

1部 吹奏楽演奏
ふじみ野市立花の木中学校吹奏楽部
2部 講演会「命の大切さ…」
風見しんごさん

学校だより 7月号

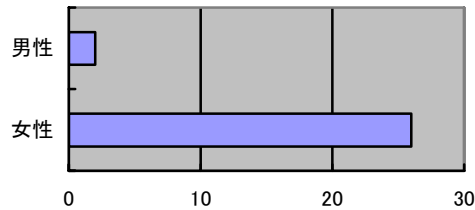
- (イ) 人脈を活用しての周知

家庭教育学級の開催を知らせ、内容に関心を向けるために、間接的な周知だけでなく、人と人との直接的な周知にも目を向けた。高学年児童には担任から呼びかけてもらった。また、PTAの役員にも協力いただき、保護者の方を誘っていただいた。その際、父親の参加もお願いし、参加者の増加を図った。

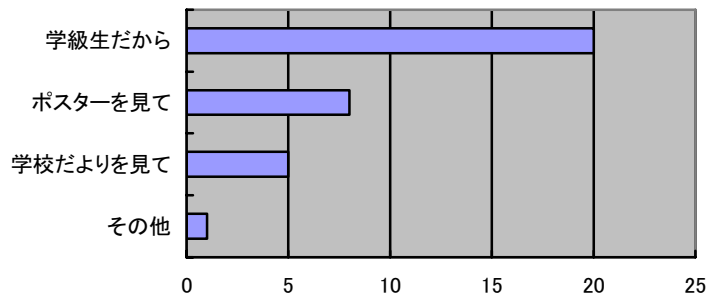
(ウ) アンケートの実施による成果の把握

アンケート1 (講演会当日)

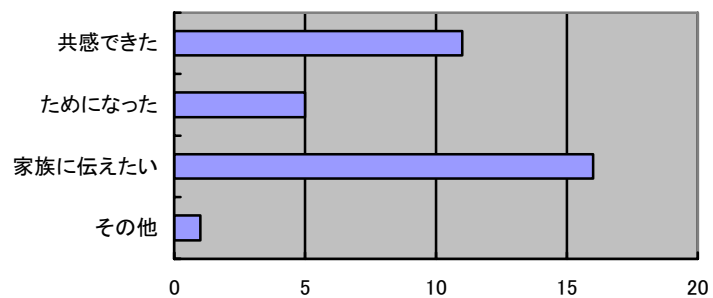
①あなたの性別は？



②来場のきっかけは？



③講演を聴いた感想は？

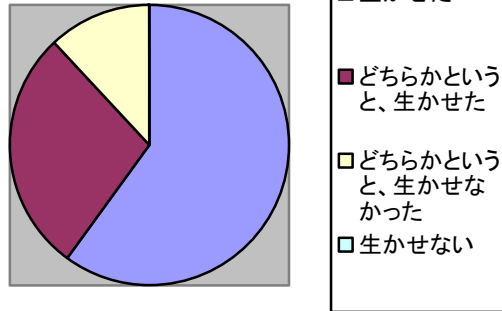


アンケートの結果から、下記のことが把握できた。

- 少数ではあるが、父親の参加があった。
- これまでは、大半が家庭教育学級生の参加であったが、学校だより等を見た一般の保護者の参加も見られた。
- 参加者の満足度が高い講演内容であった。家族に講演の内容を伝えたいと願っている保護者が多かった。

アンケート2 (3ヶ月後)

①講演会は、家庭での教育に生かせるものでしたか？



②生かした理由は何ですか？

- ・ 自分自身、深く考えさせられました。日々何気なく生活していましたが、毎日（時間）を大切にしたいと思いました。命があるから今がある、と改めてそう思いました。
- ・ 一つの自分の命が、自分のものでありながら、自分だけのものでないということを感じるようになりました。
- ・ 自分を大切にすること、まわりの人を大切に思うことを気づかせてもらったと思います。
- ・ 今回の講演会に参加して、命の大切さを痛感しました。また、交通事故の怖さを身に知らされました。
- ・ 命に対する意識の変化が得られた。
- ・ 家族全員で、講演会に行き、直に話が聞けたから。
- ・ 子どもと命の大切さについて話す、きっかけをつくってもらえました。
- ・ 子どもたちに風見さんの話をし、命の大切さについて話し合うことができた。
- ・ 一人で遊びに行く時、車に気をつけてくれるようになりました。

③生かしづらかった理由は何ですか？

- ・ 命を失ってしまうことの恐怖感が家族や自分にふりかかってしまうかも…と考えると少し恐ろしく思っていました。
- ・ やはり、実際の会場の雰囲気や臨場感など、自分の口からうまく伝わりにくいし、相手も真剣さに欠けるところがあるので難しい。

④実際に生かした家庭での実践がありますか？

- ・ 誕生日の意味を、単なるイベントで終わらせることなく、“生まれてきたことへの感謝を忘れない”ということを認識することができた。
- ・ どんな小さな命、どんな人でも生きる権利があるし、今こうしていられるのは、命があるからと子どもたちにわかりやすく話しました。また、命は一つしかないから大切に前を向いて生きようと伝えました。今回の講演に参加して、大変色々なことを改

めて考えるよいきっかけができました。

- ・ 朝の始まりを大切にしています。
- ・ 自分が運転をする際、右折や左折時に歩行者に注意すること。子どもには、横断歩道を渡る際、信号が青になっても車が来ないかどうかを十分に確認してから渡るということを教えました。
- ・ 今まで以上に子どもに交通指導を厳しくし、また、自分の車の運転も慎重にと心掛けるようになった。
- ・ 子どもたちが生まれた時のことや事故のこと、また、自分の命を絶つことなど、命の大切さについて話した。あなたがいなくなると、悲しむ人がたくさんいるということも話した。
- ・ 子どもと接する時間を一日一回は必ずとるようにしている。また、なるべくほめるようにしている。
- ・ テレビで、事故や事件のニュースがあった時や、命の誕生のシーン等、子どもと一緒に見た時は、その都度「命」について話すようにしています。
- ・ 何事にも感謝するようになりました。つらくても頑張っている風見さんを見て、自分も頑張ろうと思いました。スクールゾーンの場所や時間を意識するようになりました。子どもを以前より、もっともっと大切に思っています。

アンケートの結果から、下記のことが把握できた。

- 今回の講演会は、予想以上に家庭で生かせるものであった。
- 家庭での生かし方は、それぞれの家庭の実態に応じて工夫された生かし方がみられた。
- 命にかかわる重みのある内容であったため、子どもの発達段階によっては、生かしづらい家庭もあったようである。

ウ 成果と課題

- ◇ 学校だより等の周知方法を工夫してすすめたことにより、従来よりも参加者の数が増加した。親子の参加や、父親の参加が見られたことも大きな成果であった。さらに父親の参加を期待したい。
- ◇ 講演会の内容が、保護者のニーズにあった。そのため、数多くの家庭教育実践が見られた。家庭教育学級の実施が、各家庭の教育力を高めていることが実証できた。

B AED講習会

ア 内容

- (ア) 期日 平成 19 年 1 1 月 1 6 日(金)
- (イ) 場所 東入間東部消防署
- (ウ) 講師 消防署員

イ 支援方法

- (ア) 学校だよりやチラシを活用しての周知

学校だより 1 0 月号

第 5 回家庭教育学級AED講習会



1 1 月 1 6 日 (金) 午前 1 0 時より、入間東部消防署において、家庭教育学級「AED講習会」が実施されます。

AEDは、自動体外式除細動器のことです。大切な命を、一人でも多くの方が助けられるよう、多くの方の参加をお待ちしています。登録されている学級生以外の方も奮ってご参加ください。お父様の参加もぜひお願いします。詳しくは、後日配布されるお手紙をご覧ください。家庭教育学級は、学級委員の皆様が中心となって進めてくださっています。ありがとうございます。

保護者の参加意識を高めるために、前記の人権講演会と同じように、この取組も学校だよりを活用した。

内容は、実施期日や会場を知らせるだけでなく、講習の内容やその意義にもふれるようにした。

また、学級生以外の方の参加や父親の参加も呼びかけるようにした。そして、これらの家庭教育学級の取組は、PTAの学級委員さんたちが進めてくださっていることも伝えるようにした。

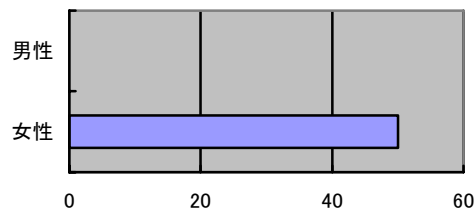
AED講習会終了後、当日の講習会の様子を 1 2 月の学校だより に写真入りで掲載し、参加者の状況や成果を知らせた。さらに、最終回の講演会のお知らせも付け加えた。



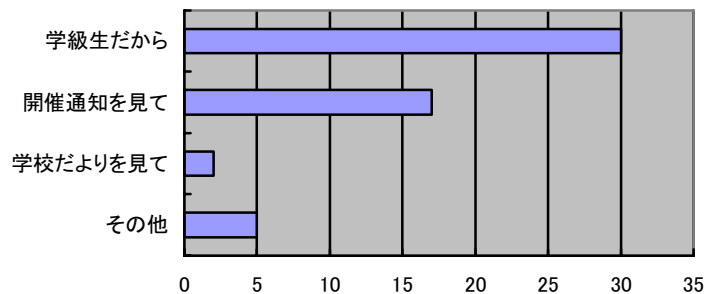
- (イ) アンケートの実施による成果の把握

アンケート (講習会当日)

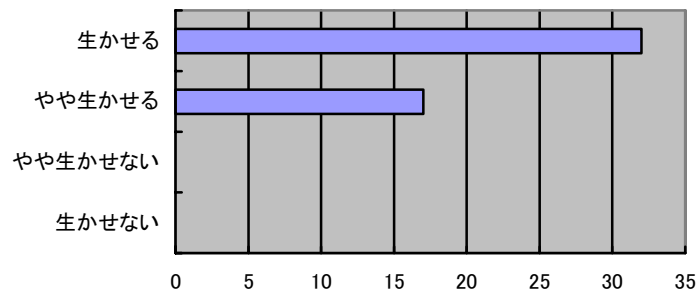
①あなたの性別は？



②参加のきっかけは？



③講習の内容は、家庭で生かせるものでしたか？



④ (③) で、そう思われた理由を教えてください。

- ・ いつでも、どこでもありうることなので、生かせると思います。
- ・ 家庭の中では直接生かせないと思いますが、いざという時のため家族で話し合いたいと思います。
- ・ 覚えていて、一度でも実物を見ていると役立つと思います。
- ・ 全体の流れはわかりましたが、そのときにできるかは自信がありません。
- ・ 外や家庭でも、どんなことが起こるかわからないので、家族にも教えたいと思います。
- ・ 自分で実際にやってみて、今後に生かせると感じました。

- ・ 自分には絶対できないと思っていましたが、実際にダミー人形でやってみて、自分にも少しはできるのではないかと思います。
- ・ 緊急時には、あわてると思います。
- ・ 家族等にも教えて、一人でも多くの人が人命救助ができるようになるといいと思います。
- ・ 身近に心臓病の人がいるので、いざというときに生かせると思います。

⑤講習を受けた感想を自由に教えてください。

- ・ 全く心肺蘇生のやり方などを知らなかったのも、とても良かったです。
- ・ これからも、このような講習は必要だと思う。
- ・ 実技をしてみるとなかなか難しかったので、家でも練習してスムーズに心肺蘇生ができるとよいと思いました。
- ・ 実技もあり、わかりやすくて良かったです。
- ・ AEDは常に目にはしていましたが、とても重要なものだということがわかりました。
- ・ すごく楽しく、ためになりました。
- ・ 個人ではなかなか受けられない講習なので、家庭教育学級で取り上げていただいてとても良かったです。
- ・ 一度では覚えきれないので、ぜひ今後も講習会を継続してほしいです。

アンケートの結果から、下記のことが把握できた。

- 平日のため父親の参加は無かったが、予想以上に大勢の方の参加があった。
- これまでは、大半が家庭教育学級生の参加であったが、学校だより等を見た一般の保護者の参加も見られた。
- 参加者の満足度が高い講習内容であった。講習の内容を今後に生かしていきたいと思っている保護者が多かった。

ウ 成果と課題

- ◇ 参加者が多数あり、周知の効果がみられた。
- ◇ 講習会の内容により、保護者の興味や関心に違いがあることがよくわかった。
- ◇ 平日の開催では、父親の参加は期待できないことがわかったのも、別の方策を考えたい。
- ◇ 今回のように、自分から進んで参加する保護者の意識はとても高い。参加しない保護者への働きかけが課題である。



2 伊奈町立小針小学校における家庭教育学級の実施状況

(1) 伊奈町のシステム

伊奈町では、教育委員会生涯学習課が家庭教育学級を担当しており、町内全小中学校で実施されている。年度当初とまとめの時期には、生涯学習課主催の「家庭教育学級担当者会議」が開かれ、計画書や実施報告書を提出することになっている。また、町共通の活動であるふれあいコンサートを計画の中に盛り込むことになっている。各小中学校のPTA年間行事に組み込まれており、年々保護者にも認知され成果も上がっているところである。

- ① 全部で、5回以上開くこと。(条件1)
- ② 「人権教育」「食育」は、必ず実施すること。(条件2)
- ③ 「家庭教育学級」の委託料は、年間8万円とする。
- ④ 町から講師の紹介をするが、活用は任せる。
- ⑤ PTAが、主体となって取り組む。

(2) 家庭教育学級の実施状況（実施計画）

本校のPTAは、各部の円滑な運営を図るため運営委員会を中心に総務部、広報部、学年部、校外指導部、文化部で組織されている。家庭教育学級を企画運営する母体は、文化部である。また、年に2回土曜日に行われる「いきいき生活支援」という親子のふれあいや体力向上等を目的とした取組では、運営委員会がその活動の中心となっている。

今回の事例紹介に際して、「いきいき生活支援」も学校から家庭への支援という観点から広義の家庭教育学級と捉え、事例の一つとして紹介する。

第1回 家庭教育学級 開講式・防犯教室講演会

月日／主体となる部・場所	内容及び取組状況	その他
6月5日 (火) PTA文化部 体育館	・講師は、埼玉県警察本部少年課の担当者。	
	・低学年・高学年の児童に分かれ、2部制で実施する。	
	・内容は、児童の発達段階に応じて行う。	
	・(1～4年対象) 不審者対策について	
	・(5・6年対象) 薬物乱用について	
	・希望する保護者は、どちらかに参加する。	
	・安全のための4つの約束など実践的な話であった。	
	・他に夏休みに特に注意すべきこと	
	・寸劇による疑似体験を通して理解させていた。	
	・参加者数15名。	

第2回 家庭教育学級 人権教育講演会

7月5日 (木) PTA文化部 あじさいルーム	・講演会 演題「人権を身近なものに」	★人権教育は必ず実施する。
	・講師 本校校長	
	・約1時間30分	
	・「人権教育とは」の全般に関するお話、ハンセン病に対する偏見・差別など演習も含めて実施された。	
	・ビデオ視聴もあり、各自の人権意識の高揚を図った。	
	・30名以上の参加があった。	

環境美化活動・いきいき生活支援「親子で流しそうめん&かき氷」

8月25日 (土) PTA運営委員会	・親子で除草作業をする。	
	・除草作業の後、流しそうめんやかき氷を食べる。	
	・100名以上の参加が見られた。	
	・詳細については、後のページで紹介する。	

第3回 家庭教育学級 エアロビクスとヨガ教室

10月29日 (月) PTA文化部 体育館	・講師は、社会法人エアロビクフィットネス協会の講師	○託児所あり
	・PTAの関係者に知り合いがいて、講師をお願いした。	
	・45名の参加有り。	
	・詳細については、後のページで紹介する。	

第4回 家庭教育学級 ふれあいコンサート

11月23日 (金) 町PTA連合会	・伊奈町PTA連合会が主催で、7校合同の行事である。	
	・伊奈学園総合高等学校吹奏楽部のコンサートを聴く。	
	・伊奈学園総合高校の体育館で実施する。	

いきいき生活支援 「餅つき大会をしよう」

12月8日 (土) PTA運営委員会	・子どもたちとともに、餅つきを行う。	
	・からみ餅、あんこ餅、汁餅などを一緒に食べる。	
	・餅米が炊きあがるまで、ドッジボールやフットベースボールなど軽スポーツを親子で楽しんだり、コンサートを開いたりする。	
	・例年好評で、期待度が高い。	

第5回家庭教育学級 食育&調理実習&閉講式

平成20年1月30日 (水) PTA文化部	・伊奈町総合センターで実施する。	★食育は必ず実施する。
	・食育&調理実習を行う。	
	・20名募集	

(3) 具体的な取組

A 環境美化活動・いきいき生活支援「親子で流しそうめん&かき氷」

ア はじめに

家庭への効果的な支援となるためには、実施内容を家庭生活で役立つものにし、保護者の参加率を高めることが重要である。実施にあたっては、家に帰って親子で会話をするきっかけとなってくればという願いを込めて、一昨年度実施し人気の高かった「流しそうめん」を計画した。

イ 計画

(ア) 運営委員会が主体となり、6月になって計画を立てた。学校への感謝を含め親子で窓ふき掃除を中心に行うこととした。また、活動後の流しそうめんは2年前実施し、好評だったことと竹で流しそうめんは家庭でできない経験なのでたくさん参加者が望めること、環境美化活動にも良い影響を与えることなどを考慮した。

(イ) 7月初旬にお知らせを配布し、参加人数を把握するため参加希望をとった。

(ウ) 8月21日、PTAから全家庭へ改めて周知する。

(エ) 学校と連絡を取り、分担等の詳細について事前打ち合わせを行う。

(オ) 前日に準備をする。

小針小学校PTA会員各位	平成19年8月21日
小針小学校PTA会長 恒 石 隆 顕	小針小学校校長 松 本 良 雄
25日(土)は環境美化活動日です!	
残暑厳しき折、保護者の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。 さて、25日(土)は環境美化活動の実施日です。子供達がよりよい環境で2学期をむかえられるよう、皆様のご協力をお願いいたします。暑い中での作業となりますが、何卒よろしくをお願いいたします。 事前の参加申し込みを忘れてしまったかたも、ぜひご協力をお願いいたします。	
記	
1 日時	8月25日(土) 午前8時30分～10時30分頃
2 場所	体育館そばに受付を設置。担当分けに従って(裏面記載)活動願います。
3 持ち物	各自の分担に従い用意できるものをご用意下さい。 ※ぞうきん・ボロ布・軍手・剪定ばさみなど ※暑さ対策として帽子・タオル・飲み物
4 その他	・受付は15分前から開始します。 ・ごみ用のポリ袋、窓拭き用のクリーナーはこちらで用意します。

ウ 実施

(ア) 準備

当日は、早朝から役員は集合し、環境美化活動の会場準備や分担説明等を行った。また、いきいき生活支援の担当者は、そうめんをゆでたり、かき氷の手配等の活動を開始した。

(イ) 実施内容

- ①午前8時15分、受付を済ませる。自分の分担を確認し必要な物を準備する。
- ②午前8時30分～10時30分まで環境美化活動を行う。
- ③10時30分ごろ、いきいき生活支援「親子で流しそうめん&かき氷」を行う。

〔 窓そうじ 〕



〔 除草1 〕



〔 除草2 〕



きれいになって気持ちがいいね。
一生懸命磨いてくれました。
草も結構大きくなっていました。

[流しそうめんの風景1]



[流しそうめんの風景2]



[流しそうめんの風景3]



[かき氷の風景]



◎ 第2回 環境美化活動

8/25(土)

◎ 平成19年度 いきいき生活支援(家庭教育学級)
親子で流しそうめん 8/25(土)

総勢約350名の方に御参加いただき、大盛況でした！

ご協力・ご参加
ありがとうございました。

(ウ) アンケートの結果（自由記述欄を抜粋）

○参加理由

- ・ 楽しそうだから（８人）
- ・ 子どもの希望、流しそうめんを体験したかったから
- ・ 役員だから
- ・ 夏休みの思い出づくり、以前楽しかったから毎年きている学校をきれいにしたい
- ・ 初めてなので、どんなものか知りたかった
- ・ 環境美化後に地域の人と交流することが楽しかった
- ・ お手伝いをしたかった

○感想

- ・ 楽しかった（１８人）
- ・ そうめん・かき氷が、おいしかった
- ・ 体験できないことが出来てよかった
- ・ かき氷の食べ放題がよかった
- ・ よい体験や思い出、とても良かった
- ・ 子どもたちが頑張って草取りをしていた

アンケートは、できるだけ書きやすいことと、可愛くすることにした。また、大きさも負担にならないようにＢ５の大きさの半分にした。

いいき生活支援アンケート

本日は、いいき生活支援『親子で流しそうめん』に参加いただき、ありがとうございます。以下のアンケートにご協力おねがいします。

① お子さまの学年に○を付けてください。
未就学児・１・２・３・４・５・６年生・中学生以上

② 参加人数は、何人ですか？
大人 名・児童 名・未就学児 名

③ 参加理由を教えてください。 ④ 感想をお書きください。

⑤ 次回も同様な企画があれば参加されますか？
はい・いいえ（理由）

⑥ 参加したい企画はどれですか？○を付けてください。（複数回答可）
餅つき、ファミリーコンサート、スポーツレクリエーション、泥あそび、子どもフリーマーケット、きもだめし、映画鑑賞、科学教室、料理教室
その他、何でもお書きください。（

☆ご協力ありがとうございました。

エ 成果と課題

- ◇ 環境美化活動といいき生活支援を同じ日に実施したため、予想以上の参加があった。
- ◇ 子どもが使っている学校をきれいにするという満足感が得られたようであった。
- ◇ 流しそうめんは、家でできないことなので、喜んでいる方が多かった。
- ◇ 暑い日だったので、かき氷も好評であった。
- ◇ 事前の準備や計画など段取りが煩雑であるので、たくさんの方に運営に加わってもらおうと、スムーズに行える。
- ◇ かき氷の量が不足して追加した。予想が難しい。
- ◇ 竹を割って、そうめんを流すことがとても良かったが、竹をたてる土台作りなどが大変だった。

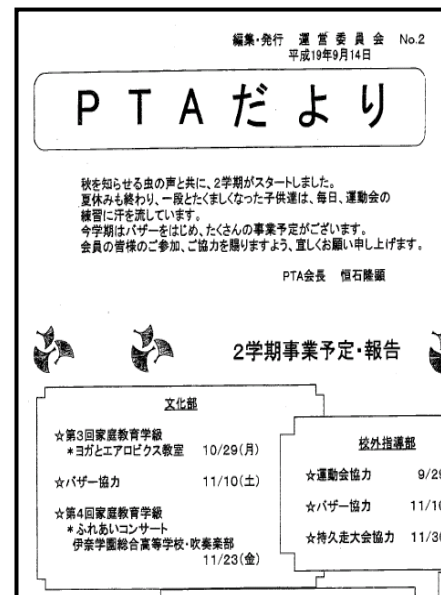
B エアロビクス・ヨガ教室

ア はじめに

昨年度の家庭教育学級で、県民活動センターでフラダンス教室を開催したところ参加者から非常に好評であった。このことを受け、日頃家事や子育てに多忙なお母さんの心と体の健康のために、何か簡単な運動ができないかと考えた。幸いなことに、エアロビクスやヨガを指導している方を知っている文化部の役員から、ヨガ教室という話が持ちあがった。そこで、今年度は、ヨガ教室を開催することになった。わずかな時間であるが、子育てから解放され、自分の時間を持つことで心にゆとりを持ってほしいと考えた。

イ 計画

- (ア) 文化部では、9月か10月頃に開催しようという計画を立てる。講師との折衝を重ね日時を決定する。
- (イ) PTA運営委員会に提案し承認を得る。
- (ウ) 「PTAだより」にて家庭へ周知する。
- (エ) 日時・場所等の打ち合わせを学校と行い講師の控え場所と体育館の確保や必要な物品などを確認する。
- (オ) 家庭に参加の申込書をつけた開催の案内を配布する。今回は、小さい子どもがいて参加できない親のことを考慮して託児希望をとることとした。
- (カ) 申し込み人数集計。



ウ 実施

(ア) 準備

当日は、8時30分頃から役員は集合し、会場準備を行った。

(イ) 実施内容

- ①講師の先生の説明を聞く。
- ②エアロビクスとヨガの実践

[講師の先生の話]

[PTA会長の話]



[ヨガのいろいろなポーズ]



[託児所の様子]



最初は不安そうな様子も見られましたが、すぐおもちゃなどで遊び始めました。4人の方が、面倒を見てくれました。月齢の小さい子をずっと抱っこしていてくれました。

(ウ) 参加者のアンケートから

- ・ 久しぶりに、“きもちいい” 汗をかきました。このまま、続けられるとよいのですが…。また、あったら参加したいです。託児もあって、良かったです。
- ・ 講義より運動する方が楽しいです。自分の運動不足を知るきっかけになりました。
- ・ 先生の明るく楽しい指導がとても良かったです。
- ・ 何かをやりたくてもなかなかやり出せないで、家庭教育学級などで気軽に参加できるのはとても良いと思う。これからの自分づくりの参考になったと思う。また、是非参加したいです。
- ・ なかなか体験できることではないので良かったです。日頃、何もしないのでストレッチぐらいはやりてみようと思いました。
- ・ エアロビとヨガに参加して楽しかったです。普段とても運動不足なのでとても良い運動になりました。
- ・ 普段運動不足なので、テンポの速いリズムにのった動きは少しきつかったのですが、楽しんで運動することができました。また、ヨガはゆっくりした運動ですが今まで使っていなかった筋肉が良く伸びてとても良かったです。またこのような機会がありましたら参加したいです。有り難うございました。

エ 成果と課題

- ◇ 会場を学校の体育館にしたため、気軽にこれたことが良かった。
- ◇ 子どもの学習の様子を見ることもできたので学校で行われたのは良かった。
- ◇ 託児所を設けたことは非常に効果があった。日頃小さい子がいるために、制限されがちなこうした活動にも、気兼ねなく積極的に参加できるという利点が見られた。
- ◇ 今回45名という多くの参加が得られたことは、体を動かすという体験型であったためと言える。楽しんで、しかもリフレッシュできることが良かったようである。
- ◇ 講師に知り合いがいたため連絡調整が比較的簡単にできた。

平成19年11月8日
発行 文化部

家庭教育学級だより 3

第3回家庭教育学級『エアロビクスとヨガ教室』(H19.10.29)

講師： 社会法人日本エアロビックフィットネス協会・長島 陽子先生
(エアロビクスからピラティスまで幅広く指導して下さる)

会場： 小針小学校・体育館

時間： 午前10時00分～12時00分

参加者： 45名

◆◆◆ 講習の内容 ◆◆◆

※エアロビクスについて

※エアロビクスとは…基本的に8ビートの曲に合わせて、色々なステップを組み合わせて踊るエクササイズです。前後・左右・上下の反復運動をくり返す事で全身の筋肉をバランスよく鍛えることが出来るのが特長。英語で Aero-bics と書き、有酸素運動を意味します。

※効果…全身持久力アップ・生活習慣病予防・シェイプアップ・ストレス解消等

※準備…ある程度のスペース・滑りにくい場所・シューズを履く・水分補給など

※当日のプログラム…1. 準備体操(手足・足首・アキレス腱・首肩など)。
2. 基本ステップ練習(マーチ・ウォーキング・Vステップ・ボックス・エルビス・ステップ・スラップステップなど)。これらのステップに手足を前後・左右・上下と変化をつけリズムもテンポアップしてゆきました。(50分間、こまめに水分を取りながら本格的な指導の元、参加者は心地よい汗をかきました。)

※ヨガについて

※発祥…約5000年前のインド。ヨガではポーズ・呼吸法・瞑想による、一連のエクササイズを行うことで、フィジカル(体)・エナジー(気)・メンタル(心)に働きかけて、この3つを調和させ人間が本来持っている生命力を發揮できるようにするもの。前屈・ねじり・後屈・倒立・逆転・バランスの6系列ポーズ

※効果…体のゆがみを矯正、内臓機能の活性化・免疫力の向上・シェイプアップリラクゼーション効果など

※準備…体を締め付けない服装・マット等を敷く・素足で行う。

※当日のプログラム…1. ウォーミングアップ(足指・足首などの調整)
2. ネコのポーズ・スネーク&ドックのポーズ・鶴のポーズ・弓のポーズ
赤ちゃんのポーズ・コブラのポーズ・ワニのポーズ・プラサナのポーズ・ねじりのポーズ・三角のポーズ・バック・腰かけのポーズ・立ち木のポーズなど、呼吸法・最後に弛緩のポーズで心も体もリラックスされました。

(4) 家庭教育学級の成果と今後の課題 (アンケートより)

活動	環境美化活動・いきいき生活支援「親子で流しそうめんを&かき氷」	エアロビクス・ヨガ教室
枚数	配布数90枚 アンケート回収78枚	参加数45名(内託児希望10名) アンケート回収31名
1	本校でいきいき生活支援(家庭教育学級)を実施していることを知っていましたか。	
	知っていた	58名
	知らなかった	20名
2	これからも家庭教育学級に参加したいと思いますか。	
	思う	77名
	思わない	0名
3	参加するにあたって、都合が良いのはいつですか。(複数回答あり)	
	平日	7名
	平日の夜	4名
4	あなたは、家庭教育学級にどんなことを期待しますか。(複数回答可)	
	ア 人間関係を広げたい	24名
	イ 趣味や特技を深めたい	6名
	ウ 知識や技能を身につけたい	3名
	エ 親子で楽しい活動をしたい	8名

	オ その他（具体的に記入） 各1票 ・親子で制作・技能を身につけたい。 ・先生方とも交流を深めたい。 ・地域で仲良くなれる行事、地域を知る行事、お年寄りとの継続的な交流など	オ その他（具体的に記入） 各1票 ・日頃、体験できないことをやってみたい。 ・体を動かすことを多く取り入れて欲しい。 ・自分の時間を持ちたい。 ・芸能人の講演会、ピラティス、託児付きのクラシックコンサート
5	参加して、楽しかったこと・希望すること 子どもと一緒に普段できないことができて楽しかった。 35名 学校や地域のために親子でできる活動を希望します。 12名 親同士の交流ができて良かった。 6名 準備する側の負担増では…。 3名 父親がもっと関われるとよい。 2名 大人数ならではの企画がよい。 他の親と交流したい。 参加者全員が楽しめる企画がよい。 子どもが喜ぶ企画がよい。 毎年同じ事をするとう参加人数が増える。	・感想等ご自由にお書き下さい。 久しぶりに汗をかいて気持ちよかった。楽しかった。良かった。 12名 先生が、魅力的・先生の明るい指導が良かった。 4名 託児があったので、自分の時間を楽しめた。 3名 また、参加したい。 3名 何かをやりたくても中々やり出せないの で、家庭教育学級などで気軽に参加できるのはとても良いと思う。 講義より運動する方が楽しい。 先生の足下が見えにくかった。

[成果]

- ・ 家庭教育学級を知っている人が、回数を重ねるたびに増えていった。
- ・ 参加した人は、また、参加したいと考えている。口コミ等で、他の方をさそって増えていくという効果が考えられる。確実に参加する人数は増えていることが分かる。
- ・ 事業の内容により、土・日曜日がよいという人と、平日がよいという人がいる。また、内容や日時により、参加する人が変わるという現象が見られた。
- ・ 人間関係を広げたい。地域の方と交流したいという意欲を持っている人がいる。
- ・ 体験を取り入れると参加人数が増加する。
- ・ 毎年同じ事業だと、また参加したいと考える様である。
- ・ 趣味を広げたい。知識や技能を身につけたいと考えている。
- ・ 学校や地域のために親子でできる活動を期待している人が多い。

[課題]

- ・ 父親の参加を増やすためには、目的に合わせて開催日や時間帯を検討する必要がある。
- ・ 次回の実施に向け、保護者の主体的な参加を増やすためには、準備・運営等の負担が過重にならないような配慮が必要である。

3 越谷市立大袋東小学校における家庭教育学級の実践

(1) 越谷市のシステム

家庭教育学級は、各地区センター・公民館において企画・立案して実施している。
家庭における教育のあり方などの講座を地区単位で開催している。

(2) 家庭教育学級の実施状況（実施計画）

本研究にあたり本校では、学校独自の取組やPTA活動の中から家庭教育学級に値する企画を今回の研究対象とした。

①学校やPTAで実施している講演会の取組

②PTA「母親教室」の取組

以上の2つの企画を練り直し、家庭教育学級としてより各家庭に浸透していくための工夫を試みる。

(3) 具体的な取組

A 講演会「豊かな子育て親育ち」・「食事と健康」

A 方向性

- ・ 講演会の内容を家庭教育に役立つものとして企画する。
- ・ たくさんの方が参加できるように工夫する。
- ・ 参加できなかった人へも講演会の内容を知らせ広める。

イ 実践1 PTA3校合同講演会

(ア) 内容が親の子育てに直接に関係する講演を企画する。3校のPTAの本部役員（校長・教頭・教務主任を含む）で企画運営する。

(イ) 日程をたくさんの方が参加できるように土曜日とする。本校ではPTA役員以外の保護者が、学校行事やPTA行事の実施にあたり、年間で一人一役を担うという協力員制度がある。その制度もあって60名がこの講演会に参加している。

(ウ) 講演会に参加した方が、講演会後に家庭でどのような活用をしたかアンケート調査により調べる。（資料1）

(エ) 講演会の内容をPTA理事会だよりに掲載し、参加できなかった人に広める。
また、報告を読んだ感想を募る。（資料3）

日時	7月14日（土）
場所	越谷市北部市民会館 劇場
参加者	3校：大袋中学校、大袋小学校、本校の保護者・職員
参加人数	143名
講演	演題 『豊かな子育て親育ち』 講師 家庭教育カウンセラー 内田玲子 氏

【参加保護者の様子・子どもの姿も…】



ウ 実践2 食育講演会

- (ア) 講演の内容を健康と食事を中心としたものとして企画する。主催は学校保健委員会で、PTA本部の協力を得て運営する。
- (イ) 学校保健委員会と学校家庭地域連絡協議会を同日開催にし、学校保健委員会の講演会が終了してから、学校家庭地域連絡協議会で大人向けの食育の講演会を開く。
- (ウ) 講演会に参加した人が、家庭に戻ってからどのような感想を持ったかを、アンケート調査により調べる。
- (エ) 講演会の内容を学校保健委員会だよりに掲載し、参加できなかった人に広める。また、報告を読んだ感想を募る。(資料2・資料3)

日時	11月2日(金)
場所	越谷市立大袋東小学校 体育館
参加者	本校児童 保護者 学校家庭地域連絡協議会員
参加人数	児童550名 保護者30名 地域の方18名
講演	演題 『食事と健康 ～病気にならない体作り～』
	講師 フードディレクター 竹井真澄 氏
	2部制 (低学年の部45分・高学年の部60分)
	保護者・地域の方はどちらも参加可



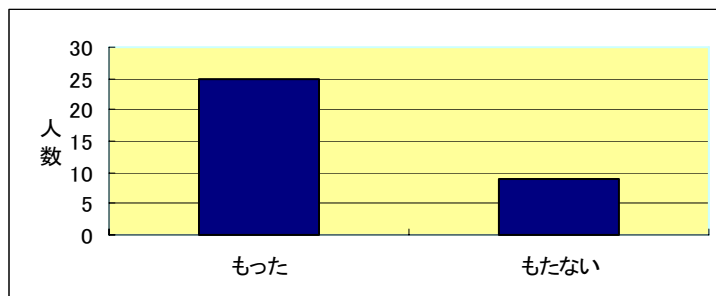
【骨盤体操の様子】



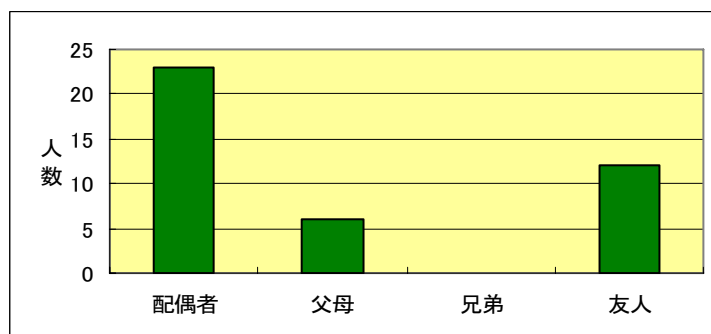
【PTAも協力しての講演会】

資料１ アンケートの項目及び結果

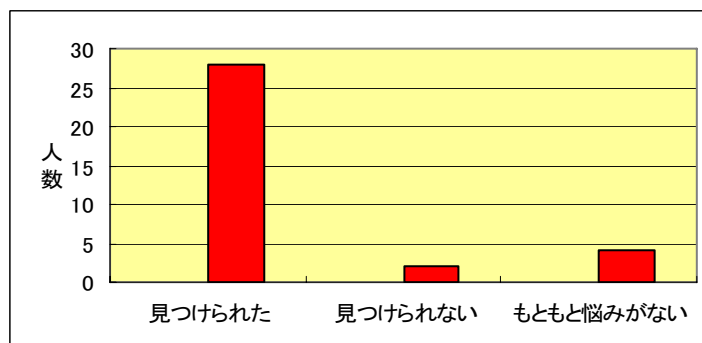
- ① 講演会の内容を話題にして、お子さんを囲んで、家族で話をする機会をもちましたか。



- ② 講演会をきっかけに、子育てについて、身近にいる大人同士と話し合いましたか。



- ③ 講演を聴いて、子育ての悩みを解決する糸口（ヒント）が見つけれられましたか。



- ④ これから、お子さんとどのように接していきたいと考えますか。具体的にお書き下さい。

- ・子どもを叱る時等、余分なことは言わないように心がける。
- ・子どもに家庭内の役割を持たせる。
- ・子どもからのメッセージに気を付ける。（言葉の変化や行動など…）
- ・まわりの物差しで測らず、努力を素直に認めてあげる事が大事。

学校保健委員会だより

越谷市立大袋東小学校 平成19年11月6日

演題 **『食事と健康 病気にならない体作り』**

講師 フードディレクター **竹井 真澄 先生**

当日は低学年向け・高学年向けの2部でお話をいただきました。保護者の方もたくさんご参加いただきありがとうございました。竹井先生の話に引き込まれ、健康な体を作れた気分になった時間でした。講演後のアンケートをみると、ほとんどの参加者がためになる話だったという感想でした。講演の内容をポイントごとにまとめました。今後の子育ての参考としてください。

ポイント1 1日一回骨盤体操

体の筋肉のほとんどは足の方にあるそうです。その筋肉を伸ばしてあげると快適に過ごせるそうです。骨盤体操の方法は以下の通りです。

(途中省略)

ポイント4 食べ物は腸で吸収される

口から食物を入れるだけでは栄養にはならない。腸が悪いと吸収できない。腸の中には悪い菌・中間菌・良い菌がいて、圧倒的に中間菌が多いそうです。中間菌は生活

(途中省略)

食育講演会報告を読んで

お子さんの学年 () () () 年

ご感想

この報告を読んで感想がございましたら、ご記入いただき担任へ提出してください。今後の家庭教育支援の参考にしていきます。よろしくお願いします。

資料3 広報紙を読んでの感想結果

前回、前々回と今まで2回ほど講演会に参加させていただき、とてもためになるお話を聞かせていただきました。今回は参加できなかったのですが、報告を読ませて頂き、親として教えられること（親育ち）また、子育てのアドバイス等、ピンポイントでお話しされていたのだと思いました、特に今の私の心に染みてきたのは、「いろいろなことは言う必要がない（そのまま答える）」という言葉と内容です。どうしても一言二言と、余計な言葉を並べ立て、子どもに指示を出すような話し方をしてしまうことが多く、自分でも“これで本当によいのかな？”と思っていた矢先だったので、改めて考えさせられ、気付かされた気がします。これを機に少しずつでも実践していきます。子どものやる気をそがないように！

本当は講演を聞きたかったのですが、仕事でいけず……
今回、このように報告していただけると、とても嬉しいです。
日頃、口ぐせのように言う言動に「はっ！」としました。
日頃、子どもの世話を頼んでいる祖母と一緒に見せていただきました。
ありがとうございました。

周りを気にしてついつい他人と比べてしまうところですが、個を尊重し信頼し、努力を認めてあげようと思いました。

“巨木は冬の間根っこをのばす”家庭（家族）はみえない部分を丈夫に育てる大地でありたいと思いました。

私は仕事のため参加できなかったのですが、子どもは帰宅してすぐ、骨盤体操を教えてくださいました。

体温の話もしてくれたのですが、報告を読んで「きちんと話が聞けたんだな。」と思いました。子どもでも興味をもって内容を理解できる……講師の方の力でしょうか。ありがとうございました。

講演会に参加しました。本当に身近なことで大変興味深くとても勉強になりました。もっと、たくさんのお母さん達に聞かせてあげたかったです。毎日の正しい食事、睡眠、運動の大切さを痛感しました。できるだけ改善していきたいと思います。

B 母親教室「ドライフラワーのフレームアレンジ」

ア 方向性

- ・ 母親教室で習った内容を家庭や地域・学校に広げる。
- ・ 親子の関係性を深めるだけではなく、保護者同士、保護者と地域・学校の交流を広げる。

イ 実践 母親教室

(ア) P T A教養部の方が中心となって、事前にドライフラワーのフレームアレンジを習い、それを母親教室で指導者として教える。

(イ) この教室での活動がどのように生かせるかアンケートで調べる。(資料1)

(ウ) 母親教室で参加した方が指導者として子どもたちに教えていく。

(エ) 6年生の卒業制作の一つとして取り組んでいく。

日時	11月15日(木)
場所	越谷市立大袋東小学校 多目的室
参加者	保護者
参加人数	40名
参加費	700円(材料費)
指導者	P T A教養委員(事前に研修に参加した委員)



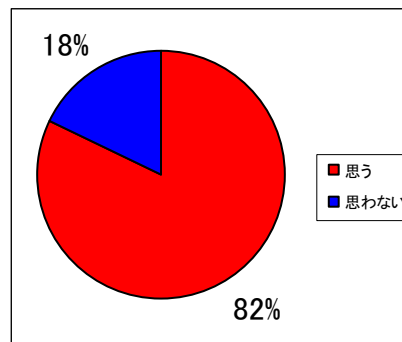
【製作の様子】



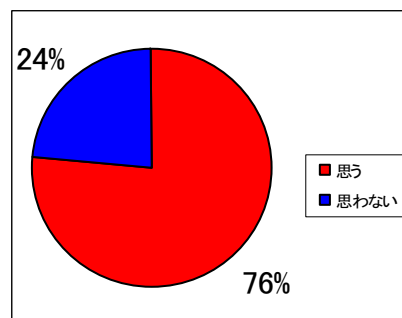
【6年生への指導の様子】

資料1 アンケートの項目及び結果

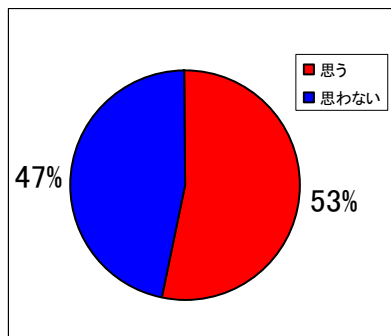
- ① 今回の母親教室のドライフラワーのフレームアレンジを家庭の中でいかしていこうと思いますか。



- ② 今回の母親教室のドライフラワーのフレームアレンジを家庭でお子さんと一緒に作ってみようと思いますか。



- ③ 今回の母親教室のドライフラワーのフレームアレンジを近所の方やお友達に教えて、広めていきたいと思いませんか。



- ④ 今回の母親教室のドライフラワーのフレームアレンジを家庭の中でいかすとしたらどのようなことが思いつきますか。ありましたらご記入下さい。

・玄関にかざる ・リースに活用 ・子どもの描いた絵を入れる ・プレゼント

- ⑤ 今回の母親教室のドライフラワーのフレームアレンジを学校やお子さんに生かすとしたらどのようなことが思いつきますか。ありましたらご記入下さい。

・図工の参考に ・クリスマスの飾り付け ・親子のふれあい
・夏休みの宿題 ・図書室の図書分類の札に飾る

(4) 家庭教育学級の成果と今後の課題

今回は例年実施している学校やPTAでの活動に工夫を加えることで、家庭教育学級をより効果的なものにしようと取り組んできた。また、意識調査等を実施したことから保護者の考えていることが見えてきた。

[講演会におけるアプローチより]

- ◇ 保護者は講演会のお話を家に帰ってから、家族の中でよく話していることが分かった。また、子育てで悩んでいることに対しても解決のヒントとなるものをつかんでいるようだ。そこで、講演会の内容を考える時は、子育ての役に立つものをよく吟味して決めることが必要だと強く感じた。
- ◇ 講演会の内容をまとめた広報紙を配布したところ、講演を聞きに来られなかった人にも喜んでもらえたようだ。広報紙を読んだ感想を見ると、今後の生活に役立てていきたいという感想も多く、手間はかかるが有効な手段だと感じた。

[母親教室におけるアプローチより]

- ◇ PTAの教養部の役員さんが学んできた技術を受講生に伝えるという方式で実施し、教える方も教わる方もより深く学ぶことができた
- ◇ アンケートでは、今回学んだことを活かし家庭でも子どもと一緒に作ってみたいという保護者も多く、今回選んだ題材は良かったと思う。
- ◇ アンケートから家庭や学校で生かすためのヒントとなる意見も得られた。
- ◇ PTAの教養部の方が今回学んだことを6年生の児童に教え、卒業制作の一つとして取り組み、広がりをもてて良かった。

今回は校内での取組に工夫を加えることで、より家庭への効果的な支援となる内容の深い実践ができた。これからも、学校やPTAの取組の内容をよく考え、より良い企画を立てていく必要がある。また、越谷市のように公民館独自での家庭教育学級に学校として協力できる部分を探り出し、協働できるシステムを考えていかなければならないと感じた。

VII アンケート調査結果の分析・考察

1 目的

本調査では、調査研究協力校の3校で、各校が実施した個々の家庭教育学級ごとに、参加者に対するアンケート調査を行った。またそれとは別に、家庭教育学級全般についての客観的なデータを収集するため以下に示すアンケート調査を実施した。特に、小学校に子どもが入学したばかりで、学校生活や子育てに関心の高いと思われる1年生の保護者及び教員を対象にしたものである。家庭教育学級が、学校から家庭への効果的な支援策となり得るかどうかを研究するための基礎資料とする。

2 方法

公立小学校3校の1年生の保護者と教員にアンケート調査を依頼する。

3 概要

(1) 調査時期

平成19年11月下旬から12月上旬

(2) 調査対象

- ふじみ野市立亀久保小学校、伊奈町立小針小学校、越谷市立大袋東小学校の1年生の保護者 291名 (回収率75%)
- 上記3校の教員 58名 (回収率100%)

4 調査の意義

小学校入学初年度の保護者の家庭教育学級に対する意識や学校への期待感に関するデータを得ることができる。

5 調査内容

- 家庭教育学級の認知度、参加率、参加意欲・都合、満足度、期待感について選択肢を設けた。
- 保護者・教員の家庭教育学級の在り方に関する自由記述欄を設けた。

- 1 本校で家庭教育学級を実施していることを知っていましたか。

(知っていた 知らなかった)



- 2 これまでに家庭教育学級に参加したことはありますか。

(ある ない)

- 3 今後、家庭教育学級に参加したいと思いますか。

(思う 思わない)



- 4 家庭教育学級に参加するにあたって、都合がよいのはいつですか。

(平日 平日の夜 土・日曜日)

- 5 家庭教育学級にどんなことを期待しますか。(複数回答可)

ア 人間関係を広げたい イ 趣味や特技を深めたい
ウ 知識や技能を身につけたい エ 親子で楽しい活動をしたい
オ その他(具体的にご記入ください。)

{

}

- 6 家庭教育学級でどんな内容を取り上げてほしいですか。(複数回答可)

ア 子育てに関するもの イ 健康や体力づくりに関するもの
ウ 地域や郷土に関するもの エ 栄養や食育に関するもの
オ 安全に関するもの カ 国際理解に関するもの
キ 人権に関するもの ク 自然や環境に関するもの
ケ その他(具体的にご記入ください。)

{

}



- 7 家庭教育学級に参加したことのある方は、楽しかったこと・新たに気づいたこと・感想などをご記入ください。又、今後、家庭教育学級に参加を考えている方は、楽しみにしていることなどをご記入ください。



アンケートB

(対象 協力校教員)

※教員の立場でご回答ください。

1 本校で、家庭教育学級を実施していることを知っていましたか。

(知っていた 知らなかった)

2 これまでに、家庭教育学級に参加したことはありますか。

(ある ない)



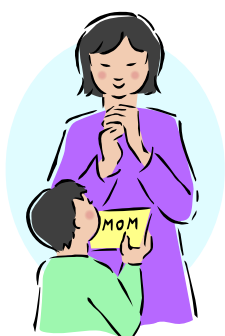
3 家庭教育学級は、家庭への支援に役立つと思いますか。

(思う 思わない)

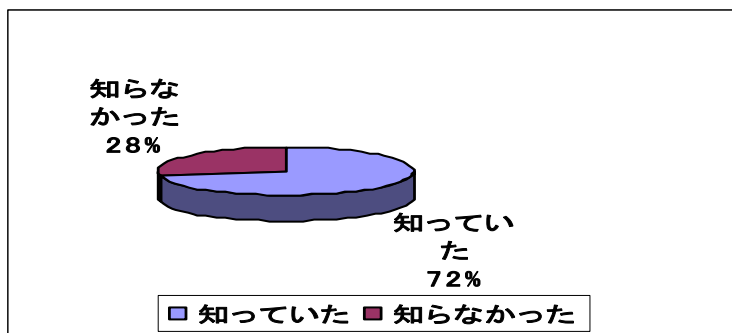
4 教員が、家庭教育学級に積極的に参加した方がよいと思いますか。

(思う 思わない)

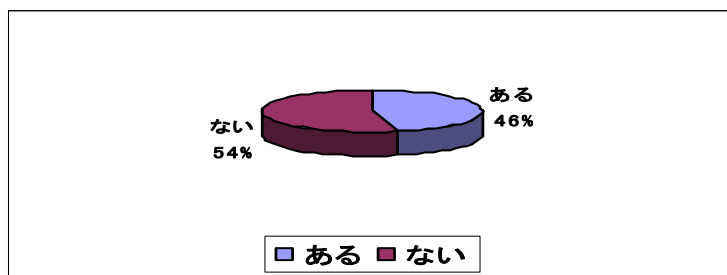
5 家庭教育学級に対する意見・感想（教員の立場で具体的にできることなど）をご記入ください。



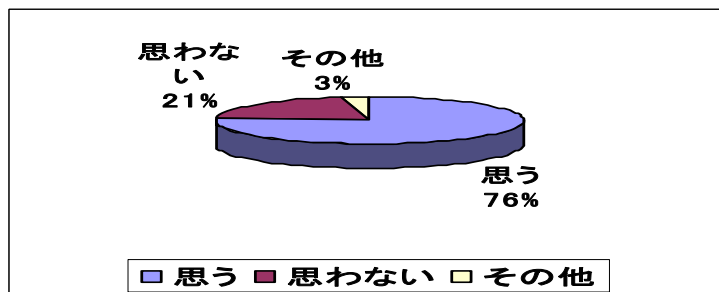
- 1 本校で家庭教育学級を実施していることを知っていましたか。



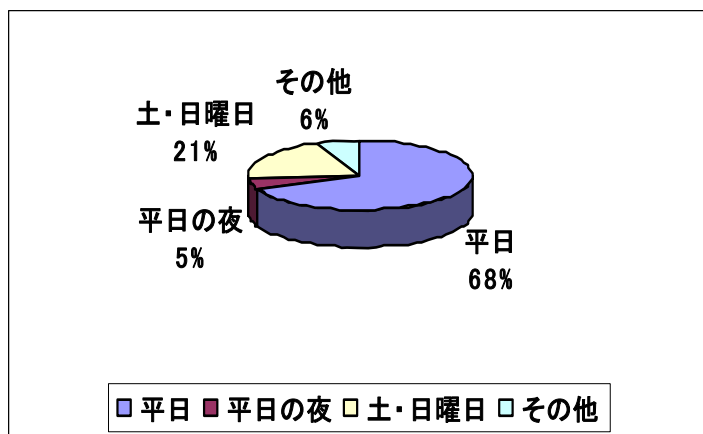
- 2 これまでに家庭教育学級に参加したことはありますか。



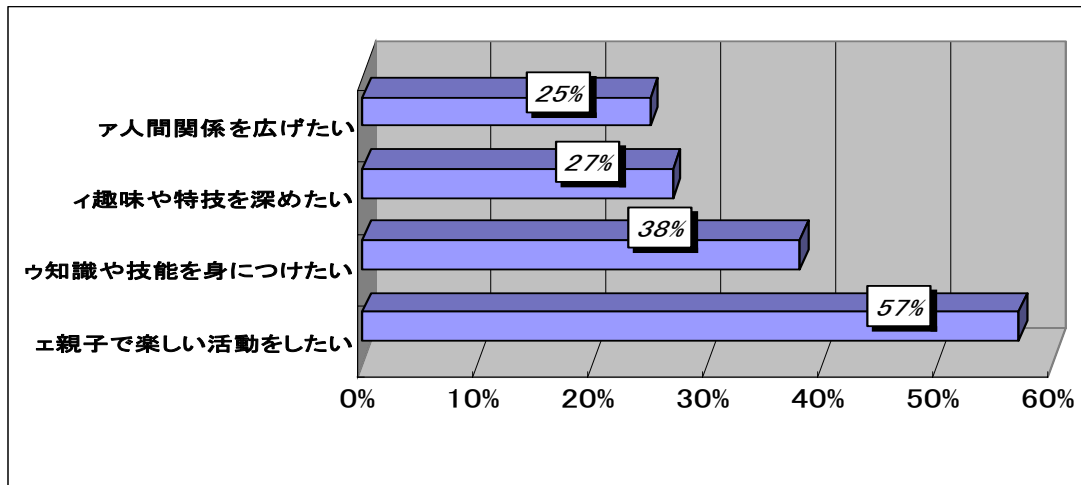
- 3 今後、家庭教育学級に参加したいと思いますか。



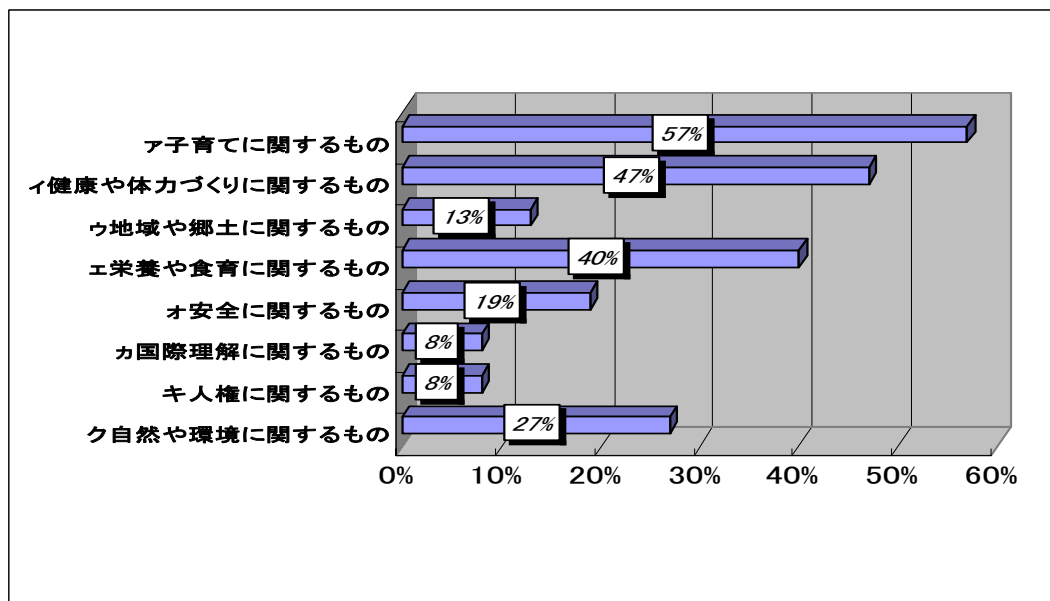
- 4 家庭教育学級に参加するにあたって、都合がよいのはいつですか。



5 家庭教育学級にどんなことを期待しますか。（複数回答可）



6 家庭教育学級でどんな内容を取り上げてほしいですか。（複数回答可）



7 家庭教育学級に参加したことのある方は、楽しかったこと・新たに気づいたこと・感想などをご記入ください。又、今後、家庭教育学級に参加を考えている方は、楽しみにしていることなどをご記入ください。

- これまで4回参加させていただきました。どの回も興味深く楽しかったです。普段なかなか講演会などに参加する機会がないので、こうした形で身近にふれあうことができるのはありがたいことです。
- 試食会など食育に関するもの、救急救命などはたいへん参考になりました。知識が増えたと思います。

- ・ 準備担当の先生方、役員の方々は、大変かもしれませんが、ぜひ続けてください。とても毎回勉強になることばかりで助かっています。
- ・ 食生活の講話を聞き、給食試食会に参加しました。地元農産物を使用し安全で真心込めた食事作りをしていただいているお話を聞き大変良かったです。改めて、食事の大切さを考えていきたいと思いました。子どもたちの食べている給食をいただけるのも良かったです。とてもおいしかったです。
- ・ このようなアンケートを通して、何に興味があるかを考えて家庭教育学級の内容を決めていただくと参加者も増えると思います。学校で子どもたちがどのように学習しているのか、昔とどのようにちがうのか知りたいです。
- ・ 家庭教育学級に参加していろいろと知ることが出来て良かったです。いろいろな専門の方のお話が聞けたり意見交換などためになることを学べて参加して良かったと思います。
- ・ 給食の試食会と救急救命の会に参加しました。給食では、子どもたちが普段どのようなものを食べているのかわかり、楽しく美味しく給食をいただきました。また、人工呼吸などいざというときに心強く大変ためになる講習でした。
- ・ 校長先生のお話や給食試食会での他のお母さんとおしゃべりする機会もとても良かったです。AEDの使い方も教えていただき良かったと思います。
- ・ 役員をするまでは忙しさなどであまり参加できなかったが、関わってみると親子で集う機会があるのは数少ない経験なのではと思った。いい思い出にもなると思う。
- ・ 子どもを預かってもらいヨガ&エアロビをしました。子どもの心配もせず、思いっきり体を動かせたのがとても楽しくストレス解消になりました。小さい子を預かってもらえる今回のような企画はうれしいです。
- ・ からだを動かして参加するのが楽しかった。人権のことなどは、難しそうに思えますが、参加してお話を聞くと自分のためになるのもっとたくさんの方に参加してもらえばと思います。
- ・ 子育てについてもっと周りを見て視野を広げてゆったりと気楽にやろうと思いました。
- ・ あらためて行くのは大変で、時間の都合を付けるのも仕事があるためとても大変です。しかしながら、参加したときは講習での話はとても参考になりとても勉強になるものでした。
- ・ 毎回、実際に体験すると予想以上に楽しいことが多いので楽しみにしています。給食メニューを作ったときは、子どもと共通の話題がもてよかったです。子どもたちの人気メニューの中で、献立名だけではどんなものか分からないものを作りたいです。
- ・ 仕事のためなかなか行事には参加できませんが、環境や食育について子どもと一緒に考えていけたらと思います。
- ・ まだ、小さい子どもがいるので、気軽に参加することが出来ません。連れて行って迷惑になるのではと思っています。小さな子連れでも参加できる内容のものや預かってもらえるコーナーがあると助かります。
- ・ 家庭教育学級自体がどういうものか分かりません。

- ・ 内容が難しそうで、あまり興味がわからない。
- ・ 一度しか参加していないので、感想と言うよりは今後に期待したいと思います。子育てに関していろいろな方と交流が出来たらと願っております。
- ・ エアロビ、ヨガは、楽しかったと聞きました。都合が合えば次回は参加してみたいと思います。
- ・ なかなか都合がつかず、参加していませんが、子どもと一緒に話を聞けるとよいと思います。
- ・ 親同士のつながりが出来ることは、いろいろな話を聞けるので、とても参考になると思います。先生方ともっと交流できればと思います。
- ・ 役員をやっている時に参加したことがあるだけです。今後、興味のあることに参加したいと思いますが、小さい子どもがいるのでしばらくは無理そうです。
- ・ まだ、先生と役員の方の区別がつきません。先生はとくに他の学年だと分からないので名札を付けていただけたらと思います。下の兄弟を預かっていただけたら参加しやすいです。

【調査結果からの考察】

■アンケート1・2…参加したいという回答は7割を超えるが、参加したことのあとの回答は5割を切っている。

◇ 実際の子育てで多くの親が少なからず悩みをもっていると思われる。その分、参加意欲が高いと思われるが、参加者数と比較すると意欲はあっても参加できないことがあるという実態がつかめる。学習内容や実施期日・時間など、検討し工夫すべき点が残る。

■アンケート4…約7割が平日を希望している一方で、土日開催を希望する保護者が、約2割に達する。

◇ 本調査の対象が1年保護者であり、平日でも参加できる母親が多いと思われる。また一方で、土日を希望する回答が2割を越えている。平日は、仕事を休めない多くの父親たちの参加を促すためにも、開催する家庭教育学級の目的やその対象に応じて、日時を設定しなければならないであろう。

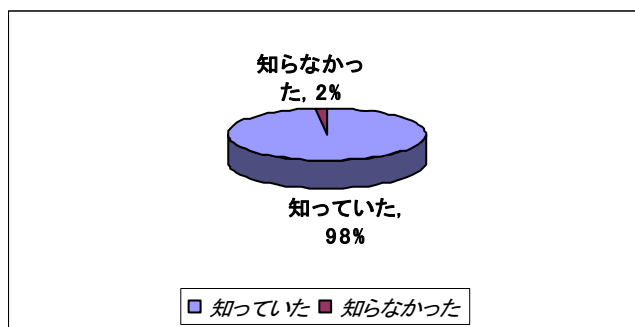
■アンケート5…親子で楽しい活動をしたいが一番高い割合になっている。

◇ 親子の関係づくりに困っている家庭が多いととれる。親子の接点が家庭の中でどれだけあるのか、また、この数値が示す家庭教育学級への期待に対して、どのように対応していけばよいのか今後の大きな課題であると考ええる。

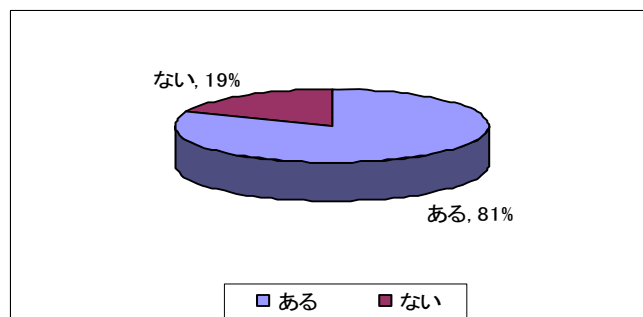
■アンケート6…子育てに関するものが一番高く、健康や体力づくりに関するもの、栄養や食育に関するものが続く。

◇ 親にとって今、目の前にいる子どもをどう育てていけばよいのかということが切実な問題となっている現れであろう。また、半分近くに上る健康や体力づくりについては、子どもではなく親自身のことと思われる。日頃の子育てのストレスが慢性的に溜まり、精神的に不安定となり、そのために子育てにとっても悪影響が出てしまうと考えられる。親のメンタルヘルスは、子どもの健全な成長にとって何よりも大切なチェック項目であろう。

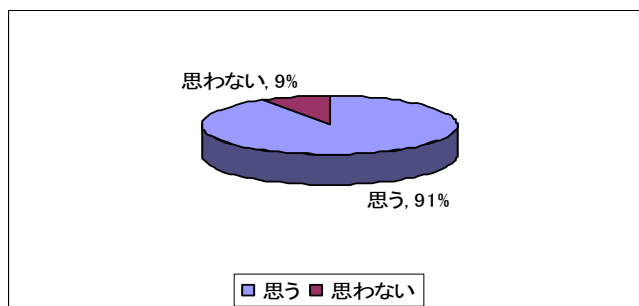
- 1 本校で、家庭教育学級を実施していることを知っていましたか。



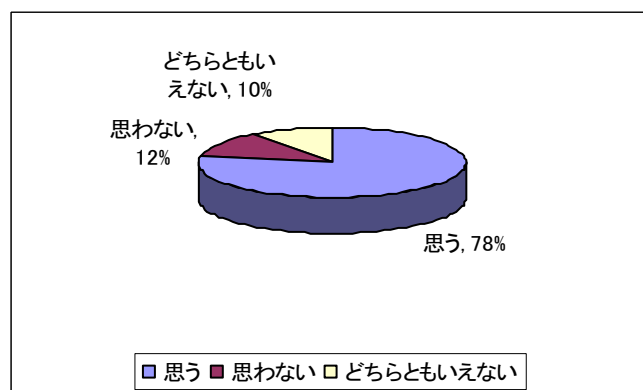
- 2 これまでに、家庭教育学級に参加したことはありますか。



- 3 家庭教育学級は、家庭への支援に役立つと思いますか。



- 4 教員が、家庭教育学級に積極的に参加した方がよいと思いますか。



5 家庭教育学級に対する意見・感想（教員の立場で具体的にできることなど）をご記入ください。

- ・ 教員は授業があるので、それ以外の時間に参加できたら良いと思う。
- ・ たくさん参加していただくために、学校で行う場合は学習参加と組み合わせるという方法も考えられるでしょう。
- ・ 時間帯が違うので難しいと思うが、同じ話を聞くことができれば共通の話題ができると思う。
- ・ 仕事を持っている人が多く、確かに面倒くさいのだけれど、保護者同士の集まり、学習したり情報交換したりすることはとても有意義だと思います。お世話する方が大変ですが本当に頭が下がる思いです。
- ・ 教員が参加した方が良いと思いますが、時間的に無理なときが多いと思います。勤務的に無理なく参加できればありがたいです。
- ・ 授業中に行われているので、職員が参加できないのが残念です。子どものことを考えともに活動できる家庭教育学級になればいいなと思います。
- ・ 時間が許せば参加し、どのような内容なのか知り、参加していない家庭に学年だよりや懇談会で広げていく。
- ・ 積極的な参加をと思いますが、なかなか出席できない方もいると思います。多くの方でやる楽しさが知ってもらえたら、参加者も増えると思います。その中で、私たちができる最大のことは、PTAのお手伝い。やれたらと思います。
- ・ 子育てのことをともに考えたり、教育活動についての共通理解が図れる場となることを願っています。
- ・ 一緒に楽しむ機会と具体的に学ぶ（保護者と話す）機会があるといい。
- ・ 家庭教育学級のねらいを考えたら、教員は違うと思う。
- ・ 多様な保護者に対応するのは難しいと思います。今、どの程度の人がそれに出席しているのだろうか。役員だから仕方がないと思って出席しているのなら・・・どうなのだろう。
- ・ 各学校ごとに内容を考えているが役員さんの負担が大きく高学年では役員のなり手もいなくなってしまう。市全体の学校を1つの組織として公民館などを使い行っていく方が良いと思う。学校教育の中だけでやろうとしないで社会教育と連携して「親力」アップの取組にしてほしい。

〔調査結果からの考察〕

■アンケート3・4…家庭教育学級は家庭への支援に役立つと思う教員が9割を越えている。また、積極的に参加した方がよいは約8割である。

◇ 教員が、家庭教育学級に対して時間的な制約などから十分に関わっているとは言えない実態があるようだが、その意義については高く認識されている。さらに、一緒に活動することへの意欲も高い。自由記述欄にもあるように、親も教員もともに子どものことを考え、同じ土俵で子育てについて語れる場が益々必要になっていくのではないかと考える。

VIII 研究のまとめ

本調査研究では、家庭の教育力低下が指摘される中、学校から家庭に対してどのような効果的な支援ができるのかを追究してきた。特に、今年度は「家庭教育学級」に焦点を絞って調査研究を進めた。

学校から家庭への効果的な支援方法

それは「家庭教育学級」が一番です！

本調査研究の実践事例が示すように、家庭教育学級は企画運営にひと工夫することで、実に効果的な家庭支援につながる。その家庭教育学級をよりよいものにし、家庭支援を通して、子どもの成長に大きな影響を与えることができると考える。さらに、そのことで学校での教育活動にもよりよい影響がもたらせるであろう。そこで、今後の家庭教育学級の実践にあたり、研究のまとめとして以下に7つの提言を示したい。

提言1 情報の再発信

本研究の様々な実践の中で、学校からの情報再発信が有効な方策であることを確かめることができた。開催案内の広報活動は、非常に重要である。そのための情報発信として様々な有効な手段を試みる事ができた。さらに、家庭教育学級の実施後に、学習内容や参加者の感想などの情報を再発信することで、その成果が再認識・再発見される。その上、逆に情報を得た人から再評価を受け取ることも可能である。これを繰り返すことで、家庭教育学級の輪が広がり、保護者の主体的な参加を促進するものと考えられる。

提言2 学びの成果を授業で

家庭教育学級は多くの学びを生み、その学びを家庭に持ち帰り子育てに生かすことができる。また、本実践でも取り上げているように、学びの成果を学校の授業やPTA活動、さらには、友人や地域へ伝え生かすことができれば、より高い満足感や充実感が得られるであろう。そのことが、新たな活動意欲につながっていく。このような成果の活用まで視野に入れた家庭教育学級の活動を実践してみたい。

提言3 教員が企画から参加

学校全体（全教職員）に、「家庭教育学級をいっしょにやっぺいこう」という気運や仕組みが生まれる働きかけ。さらに、学校・家庭・地域に、「家庭教育学級をいっしょにやっぺいこう」という気運や仕組みが生まれる働きかけ。どちらも、管理職が積極的に果たさなければならないことである。また、本実践からも明らかのように、教員がただ参加するだけでなく、企画の段階から関わることで家庭教育学級の実が上がる。時間的制約など条件面での厳しさはあるが、そのハードルをクリアすることで、「子どもたちのよりよい成長」という家庭（保護者）と学校（教員）にとって共通の願いが実現できるものとする。

提言 4 地域ぐるみの活動

家庭教育・子育てには、地域の人材の協力がなくてはならない。地域の多くの方が、家庭教育に関われるよう家庭教育学級を企画してみたい。また、参加対象を地域の幼児をもつ母親にも広げ、地域ぐるみの家庭教育学級に発展させたい。

提言 5 P T A活動の活性化

多くの学校で家庭教育学級の中心になっているのは、P T Aである。そこでP T Aの活性化を図ることで、家庭教育学級がさらに充実したものになると考えられる。そのためには、すでに子育てを終えたP T AのO B ・ O Gに参加の道を開き、これまでの経験や知恵を生かせるようなシステムを創り上げたい。

提言 6 公民館（行政）との連携

学校が公民館等に働きかけて、行政との連携を密にし実施する。先に示したように、県内では、家庭教育学級を公民館主催で実施している市町村もある。また、学校や家庭に関連する事業を組んでいる公民館も多数ある。学校が公民館とのパイプをより太くし、ともに家庭への働きかけを繰り返すことで大きな効果が上げられると考えられる。

提言 7 環境整備・条件整備

家庭教育学級は、単発のものではなく、継続していくことに価値がある。そのためには、内容の工夫はもちろんのこと、環境整備や条件整備が必要である。本事例でも取り上げている通り、託児のシステム化は急務である。また、家庭教育学級の名称を「ほほえみ学級」や「ベストフレンズ」（実在の学級名）などのような魅力あるものにしていくこともひとつの工夫である。

以上、家庭教育学級を学校から家庭への効果的な支援方法とするため、本調査研究のまとめとして7つの提言を示した。彩の国教育改革アクションプランの中では、「家庭や地域との連携に対する教員の意識改革の推進」や「教員のP T A活動への一層の理解と積極的参加の促進」が求められている。本調査研究を進める中で、そのために学校が何をすればいいのか、これまであまり触れられてこなかったことが、僅かではあるが明らかになってきた。

本調査研究報告書が、多くの学校において、学校から家庭への効果的な支援に役立つものとなれば幸いである。

□調査研究指導助言者

政策研究大学院大学

副学長

今野 雅裕

□調査研究協力委員

ふじみ野市立亀久保小学校

教諭

榊原 哲也

前PTA副会長

丸井 利恵

越谷市立大袋東小学校

教諭

斎藤 紀義

前PTA副会長

平川 明子

伊奈町立小針小学校

教諭

澁谷 啓子

前PTA副会長

山中 あけみ

所沢市教育委員会社会教育課

前社会教育指導員

高橋 ヨシ子

埼玉県子育てアドバイザー

小宮 るり子

深谷市教育委員会生涯学習課

係長

神村 とし子

戸田市立芦原小学校

ふれあい推進長

本橋 みゆき

□担当所員

埼玉県立総合教育センター生涯学習担当

主任社会教育主事

橋本 孝司

主任社会教育主事

柳下 高明

社会教育主事

矢島 久

研究報告書 第317号

「学校から家庭への効果的な支援方法の調査研究

～学校から家庭教育へのアプローチⅡ～（家庭教育学級編）」

平成20年3月発行（平成19年度）

編集・発行：埼玉県立総合教育センター 生涯学習担当

〒336-8555 埼玉県さいたま市緑区三室1305-1

TEL 048-874-1221（代表）

048-712-5656（生涯学習担当直通）

FAX 048-810-1013